

第51号

茨城の幼児教育

保護者や地域との連携が作り出す保育・教育の可能性
～アンケートの活用を通して～



令和8年3月

茨城県教育委員会

ま え が き

本県では、幼児期の教育における当面の課題をとらえ、教育課程の編成や指導方法等の改善を図ることを目的に、昭和44年度から「茨城の幼稚園教育」（平成27年度からは「茨城の幼児教育」と名称を変更）を発行しております。

本資料は、幼児教育における現代的な課題を研究テーマとして取り上げ、保育実践に役立つ具体的な実践事例等を掲載してきました。

本第51号の研究では、各園・各校の内外の評価としてアンケートを活用し、「保護者や地域との連携が作りだす保育・教育の可能性」を探るための実践をまとめました。

幼児期の健やかな発達は、家庭・地域・幼稚園が相互に関わり合う中で育まれます。各地域には、長年にわたり培われ受け継がれてきた文化や伝統、人とのつながりといった貴重な教育資源があります。これらを生かした幼児教育や学校教育は、子どもたちが地域に親しみと誇りをもち、心豊かに成長する基盤となります。

実践例の作成に当たっては、教育課程や指導改善の進め方について提案できるように、その様式を整えました。本号をご覧ください皆さんが、園の方針や指導の課題をもとに、カリキュラム・マネジメントを進めるという視点から、各事例をご覧くださいいただきたいところです。そして、各園が学校評価とカリキュラム・マネジメントを関連付けて、計画的にPDCAサイクルを回していく際の、ヒントになれば幸いです。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格の基礎を培う重要なものです。架け橋期の保育・教育に携わる全ての方々が、子どもたちの可能性を信じ、ねらいを明確にして日々の取組を充実させていくことが、子どもたちの健やかな成長を促すと考えます。本資料につきましては、幼児教育施設だけでなく小中学校の方々にもぜひご一読いただくとともに、園内・校内での研修等で活用していただくなど、それぞれの施設において保育・教育の充実の一助となることを願っております。

結びになりますが、本指導資料の作成に当たり、多大なご尽力をいただきました作成委員の皆様へ、心から感謝を申し上げます。

令和8年3月

茨城県教育庁学校教育部義務教育課長
山口 英司

目 次

I 幼児教育の現状	1
1 幼児教育の概要	2
2 全国の幼児教育施設の状況	3
3 本県の幼児教育施設の状況	4
4 令和7年度幼児教育関連事業概要	7
II 保護者や地域との連携が作りだす保育・教育の可能性 ～アンケートの活用を通して～	10
1 実践事例解説	11
2 資料の事例を読み、活用するに当たって	14
3 実践事例一覧	19
4 実践事例	20
III 令和7年度茨城県幼児教育研究推進校の取組	61
筑西市立認定こども園せきじょうの実践	62
IV 令和7年度幼児教育教育課程研究協議会の要旨	64
1 (協議主題) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について 【協議の視点】① 幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互 理解の促進	65
【協議の視点】② 架け橋期のカリキュラムの開発・実施	68
2 グループ協議の結果(まとめ)	70
V 資料	72
・家庭教育応援ナビ「すくすく育て いばらきっ子」	73
・「架け橋カリキュラム」の作成・実施を	74
・幼児教育関係資料一覧	75
・「茨城の幼児教育第51号」作成協力者	81

表紙の絵 「お花のトランポリン」

神栖市立大野原小学校 1年生

I 幼児教育の現状

- 1 幼児教育の概要
- 2 全国の幼児教育施設の状況
- 3 本県の幼児教育施設の状況
- 4 令和7年度幼児教育関連事業概要



「やきいもパーティ」
認定こども園ひたち学院幼稚園
5歳児

「ぼくのかお」
常総市水海道第一保育所
2歳児



1 幼児教育の概要

◆ 幼稚園設置状況及び在園児数

令和7年度学校基本調査によると、5月1日現在で全国の幼稚園数は8,225園(国立47園、公立2,354園、私立5,824園)と、前年度より305園(公立180園、私立125園)減少し、在園児数は689,609人で68,359人減少しています。

本県での状況は、幼稚園数176園(休園2園)で、前年度より12園(公立6園)減少し、在園児数は1,749人減少しています。

◆ 幼保連携型認定こども園設置状況

令和7年度学校基本調査によると、5月1日現在で全国の幼保連携型認定こども園数は7,673園(国立1園、公立1067園、私立6,605園)と、前年度より352園増加し、在園児数は875,976人で17,726人増加しています。

本県での状況は、幼保連携型認定こども園数182園(公立22園、私立160園)で、前年度より6園(私立6園)増加し、在園児数は11人増加しています。

◆ 国の動き

- 1 令和7年度幼児教育の理解・発展推進事業で、協議主題に「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」を掲げました。幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進、及び幼保小間における連携・協働をより一層進め、評価・改善させながら、持続可能なものとしていく姿勢を示しました。
- 2 架け橋期のカリキュラムの実効性を高めるなど、幼保小の接続の取組について、家庭や地域との連携を図りながら評価・改善・発展させるため、幼児教育施設での保育、及び小学校での教育の在り方を示しました。
- 3 令和6年10月の「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告」の内容が令和7年6月に公表されました。特に以下のことをご紹介します。

○第2章 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題等

2. 現代的諸課題に応じて検討すべき事項

- (1) 幼児教育施設におけるICTの活用→環境の整備や支援、低学年児への弊害・リスクや活用上の留意点についての検討が必要。
- (2) 特別な配慮を必要とする幼児への指導→継続的な支援を可能にする体制作りが必要。
- (3) 幼稚園等が行う、いわゆる預かり保育→より実践的な調査研究を進めることが必要。
- (4) 幼稚園等における満3歳以上児の教育の接続→幼児期における教育の一貫性・連続性の確保が重要。
- (5) 地域における幼児教育施設の役割→地域の幼児教育の中核的存在、保護者の家庭での養育等の重要性について普及・啓発することが重要。

○第3章 必要な条件整備

1. 地方自治体における幼児教育担当部局の在り方→教育委員会が有する学校教育の専門的知見を生かしながら、幼児教育段階から高等学校段階までの教育の一貫性・連続性を確保した施策を展開することが重要。
2. 今後の幼児教育施設の在り方→公立幼稚園については、これまで果たしてきている役割を今後も果たせるよう、地方自治体において、地域の実情や保護者のニーズ等を踏まえつつ、3年保育や預かり保育の実施、認定こども園への移行等を検討することが必要。
3. 幼児教育施設への支援体制
 - 地域の幼児教育ビジョンを明確にし、幼児教育センターの設置・活用、幼児教育施設の合同研修、幼児教育アドバイザー・架け橋コーディネーター等の育成・配置等を推進する。
 - 教育委員会が中心となり、「幼保小の接続プログラム」促進のための体制を構築する。
 - 国公立の幼児教育施設のネットワークやプラットフォームの構築、公開保育等を推進する。

2 全国の幼児教育施設の状況

(1) 幼稚園数・学級数・在園児数

■令和7年度の設置者別統計 (令和7年5月1日現在 学校基本調査による)

区分	合計	国立	公立	私立	
幼稚園数(園)	8,225	47	2,354	5,824	
学級数(学級)	39,982	210	5,901	33,871	
在園児数(人)	3歳児(満3歳児含)	210,275	1,039	18,045	191,191
	4歳児	224,558	1,390	25,053	198,115
	5歳児	254,776	1,487	32,427	220,862
	計	689,609	3,916	75,525	610,168

※「満3歳児」とは、満3歳に達する日以降の翌年度4月1日を待たずに随時入園した者である。

※「0人」の学級も含む。

※分園も1園として計上している。

(2) 幼保連携型認定こども園数・学級数・在園児数

■令和7年度の設置者別統計 (令和7年5月1日現在 学校基本調査による)

区分	合計	国立	公立	私立	
認定こども園数(園)	7,673	1	1,067	6,605	
学級数(学級)	32,567	5	4,638	27,924	
在園児数(人)	0歳児	30,993	0	2,761	28,232
	1歳児	103,293	0	10,731	92,562
	2歳児	123,537	6	13,599	109,932
	3歳児	202,725	30	23,921	178,774
	4歳児	203,251	29	25,286	177,936
	5歳児	212,177	27	27,466	184,684
	計	875,976	92	103,764	772,120

※「0人」の学級も含む。

※分園も1園として計上している。

(3) 保育所数・在園児数

■参考：令和5年度の統計 (令和6年4月1日現在 福祉行政報告例による)

区分	合計	国立	公立	私立	
保育所数(園)	23,523	—	—	—	
在園児数(人)	0歳児数	92,604	—	—	—
	1・2歳児数	643,476	—	—	—
	3歳児数	373,411	—	—	—
	4歳以上児数	760,382	—	—	—
	計	1,869,873	—	—	—

(令和7年度の数値は令和8年度に公表されるため、本号では6年度の数値を記載した)

3 本県の幼児教育施設の状況

(1) 幼稚園数・学級数・在園児数

■令和7年度の設置者別統計 (令和7年5月1日現在 学校基本調査による)

区分		合計	国立	公立	私立
幼稚園数 (園)		176	1	67	108
学級数 (学級)		802	4	189	609
在園児数 (人)	3歳児 (満3歳児含)	3,735	15	471	3,249
	4歳児	4,341	31	827	3,483
	5歳児	4,868	32	946	3,890
	計	12,944	78	2,244	10,622

※「0人」の学級も含む。

※分園も1園として計上している。

(2) 幼保連携型認定こども園数・学級数・在園児数

■令和7年度の設置者別統計 (令和7年5月1日現在 学校基本調査による)

区分		合計	国立	公立	私立
認定こども園数 (園)		182	—	22	160
学級数 (学級)		833	—	90	743
在園児数 (人)	0歳児	629	—	54	575
	1歳児	2,196	—	219	1,977
	2歳児	2,830	—	265	2,565
	3歳児	4,986	—	440	4,546
	4歳児	5,106	—	483	4,623
	5歳児	5,402	—	522	4,880
	計	21,149	—	1,983	19,166

※分園も1園として計上している。

(3) 保育所数・在園児数

■令和7年度の設置者別統計(令和7年4月1日現在 こどもの福祉と健康に関する状況報告による)

区分		合計	国立	公立	私立
保育所数 (園)		458	—	103	355
在園児数 (人)	0歳児	1,793	—	282	1,511
	1歳児	5,893	—	956	4,937
	2歳児	7,061	—	1,271	5,790
	3歳児	7,822	—	1,463	6,359
	4歳児	7,908	—	1,571	6,337
	5歳児	8,058	—	1,676	6,382
	計	38,535	—	7,219	31,316

(4) 市町村別幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所数

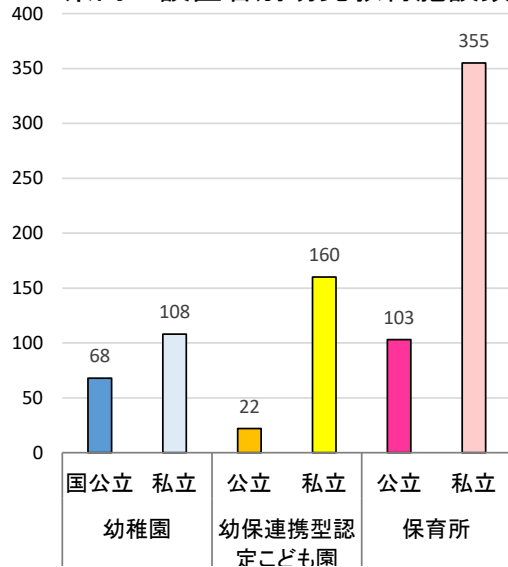
(単位：園)

管内	区分 市町村名	幼稚園数			幼保連携型認定こども園数			保育所数		
		計	国公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立
水戸教育事務所	水戸市	21①	8①	13	8	2	6	60	11	49
	笠間市	5		5	5		5	5	1	4
	ひたちなか市	9	3	6	0			23	4	19
	常陸大宮市				5	1	4	7	1	6
	那珂市	3	1	2	2		2	7	1	6
	小美玉市	3	2	1	4		4	8		8
	茨城町	4(1)	3(1)	1	4		4	3		3
	大洗町				0			4	1	3
	城里町				2		2	2	1	1
	東海村	3	2	1	3	1	2	7	3	4
大子町	1	1		0			4	3	1	
	水戸計	49①(1)	20①(1)	29	33	4	29	130	26	104
県北教育事務所	日立市	10	2	8	14	2	12	18	9	9
	常陸太田市	2	2		5	4	1	6	2	4
	高萩市	0			2	1	1	3		3
	北茨城市	4		4	0			5	1	4
	県北計	16	4	12	21	7	14	32	12	20
鹿行教育事務所	鹿嶋市	4	4		8	1	7	9(1)	2	7(1)
	潮来市				9	1	8			
	神栖市	4	4		6	2	4	21(1)	1	20(1)
	行方市	3	3		4		4	4		4
	鉾田市	4	4		3		3	6	2	4
	鹿行計	15	15	0	30	4	26	40(2)	5	35(2)
県南教育事務所	土浦市	10		10	6	1	5	19	3	16
	石岡市	5		5	2		2	13	4	9
	龍ヶ崎市	4		4	6		6	8	1	7
	取手市	6	1	5	8		8	13	4	9
	牛久市	4	1	3	2		2	14	3	11
	つくば市	24(1)	17(1)	7	6		6	79	19	60
	守谷市	5		5	1		1	19	2	17
	稲敷市	1	1		3	2	1	2		2
	かすみがうら市	1		1	2		2	6	2	4
	つくばみらい市	4	3	1	4		4	14	4	10
	美浦村	1	1		0			2	2	
	阿見町	2		2	2		2	8	3	5
	河内町				1	1		0		
利根町	2		2	1		1	2		2	
	県南計	69(1)	24(1)	45	44	4	40	199	47	152
県西教育事務所	古河市	7		7	12		12	17	4	13
	結城市	3		3	1		1	10	3	7
	下妻市	5	2	3	0			7	1	6
	常総市	3	2	1	4		4	9	4	5
	筑西市	2		2	22	1	21	1		1
	坂東市	2	1	1	6	2	4	3		3
	桜川市				2		2	4	1	3
	八千代町	3		3	2		2	4		4
	五霞町				2		2	0		
	境町	2		2	3		3	4		4
	県西計	27	5	22	54	3	51	59	13	46
	県合計	176①(2)	68①(2)	108	182	22	160	460(2)	103	357(2)

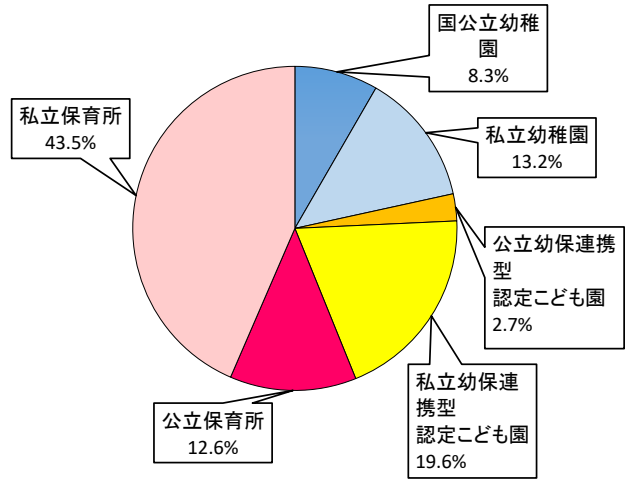
※ ○は国立数(内数) ()内は休園数(内数) (令和7年5月1日現在)

※ 幼稚園には幼稚園型認定こども園を含む。保育所には保育所型認定こども園を含む。

(園) 県内の設置者別幼児教育施設数

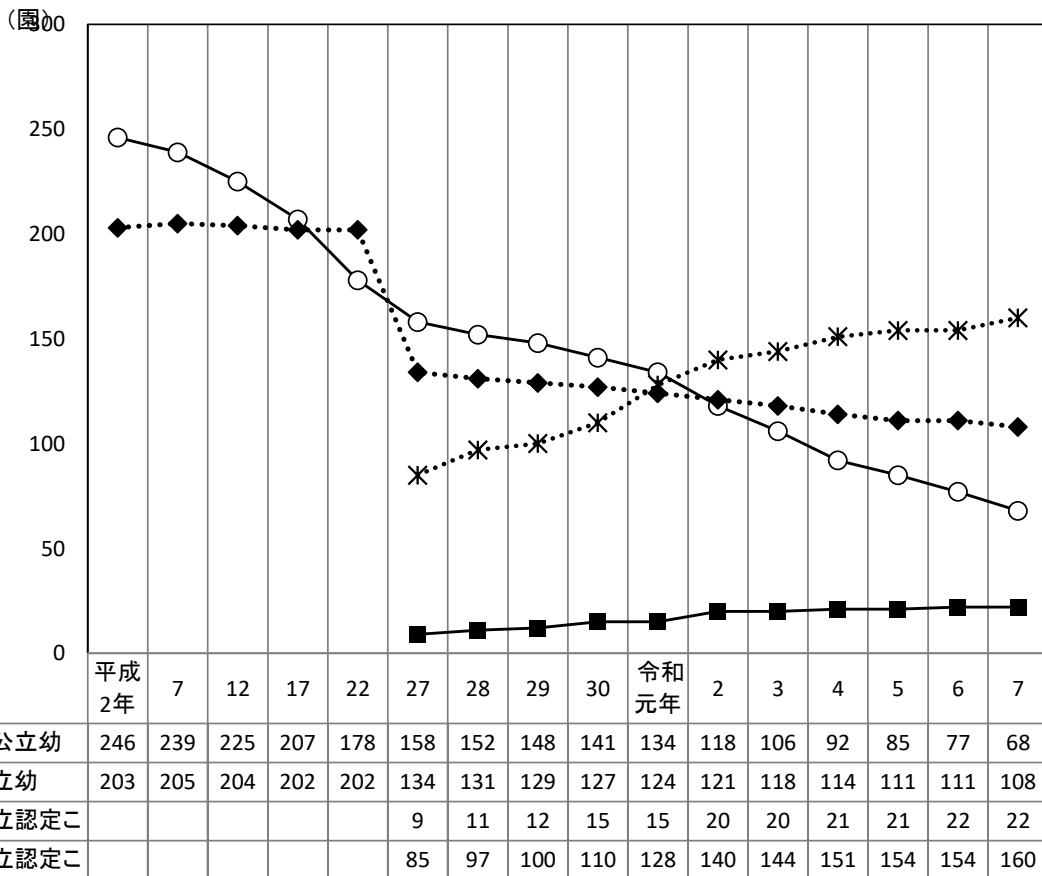


県内の設置者別幼児教育施設数の割合



※ 認定こども園のうち、幼稚園型は幼稚園に、保育所型は保育所に含めている。

幼稚園・幼保連携型認定こども園数の推移



4 令和7年度 幼児教育関連事業概要

※義務教育課事業

(1) 研修事業

① 新規採用教員研修(幼児教育) ※平成4年度開始

平成29年度から現在の名称になった。園外研修7日間、園内研修10日間（公立幼稚園及び公立幼保連携型認定こども園には研修指導員を派遣）からなっている。

《園外研修》

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	5月29日	県教育研修センター	○講義「サービスと心構え、安全管理」 ○講義「園教育の基本」 ○講義「人権教育の推進」	公立幼 12名 私立幼 9名 公立認こ 23名 私立認こ 33名 公立保 6名 私立保 6名 国立 0名 県立 2名 計 81名
2	6月16日	県教育研修センター	○講義・協議「学級経営の意義 ～園内保育参観を通して～」 ○講義・演習「幼児理解に基づいた評価」	
3	7月7日	県教育研修センター	○講義「家庭との連携・保護者への対応」 ○講義「ICTの活用と情報モラル」 ○講義・実習「読み聞かせの基本と実際」	
4	7月23日	県教育研修センター	○講義「教育課程と指導計画」 ○演習「指導計画の作成」	
5	8月22日	堀原運動公園大道場	○講義・実習「救急処置・食物アレルギーへの対応」 ○実習「運動遊び・伝承遊び」	
6	1班 10月9日 2班 10月16日 3班 10月31日	結城特別支援学校 石岡特別支援学校 勝田特別支援学校	○実習「特別支援学校における体験研修」 ○研究協議「特別な配慮を必要とする幼児・児童への対応」	
7	1月21日	県教育研修センター	○講義「小学校教育との接続・連携」 ○講義「幼児教育の現状と展望」 ○協議「1年間を振り返って」	

② 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修(幼児教育) ※平成15年度開始

教育公務員特例法の規定に基づき、教職経験6年次に当たる教諭、保育教諭を対象に、個々の能力、適性等に応じた1年間の研修を実施し、教諭等としての資質の向上を図ることを目的とする。

公立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の対象者は悉皆で、私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園、公私立保育所の対象者は希望により、園外研修5日、園内研修5日を行った。

《園外研修》

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	6月4日	県教育研修センター	○講義「ミドルリーダーに求められる資質・能力」 ○講義「幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けて」 ○情報交換「実践研究について」	〈悉皆研修〉 公立幼 19名 公立認こ 13名 〈希望研修〉 私立幼 0名 私立認こ 4名 公立保 1名 私立保 0名 計 37名
2	6月25日 6月30日	県教育研修センター	※ 第1回保育技術専門研修に参加 ※ どちらか1日に参加 ○講義・演習「障害のある幼児の理解と対応」	
3	8月4日	県教育研修センター	※ 幼児教育教育課程研究協議会に参加 ○基調講演「架け橋期の充実につなげるための園内研修の在り方」 ○研究協議 協議主題「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」	
4	11月17日	県教育研修センター	※ 第3回保育技術専門研修に参加 ○講義・演習「環境の構成について」	
5	1月30日	オンライン	○実践報告会「学級経営の工夫」 ○研究協議「中堅教諭としての役割」	

③ 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修（幼児教育） ※令和2年度開始

教育公務員特例法の規定に基づき、教職経験12年次に当たる教諭、保育教諭を対象に、個々の能力、適性等に応じた1年間の研修を実施し、教諭等としての資質の向上を図ることを目的とする。
 公立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の対象者は悉皆で、私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の対象者は希望により、園外研修5日、園内研修5日を行った。

《園外研修》

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	5月27日	県教育研修センター	○講義「ミドルリーダーに求められる資質・能力」 ○講義「人権を尊重した教育・保育」 ○情報交換「実践研究について」	〈悉皆研修〉 公立幼 9名 公立認こ 11名
2	6月12日	県教育研修センター	○講義・演習「園内研修の効果的な進め方」	
3	6月～12月	各小学校	○体験「小学校における体験研修」	〈希望研修〉 私立幼 0名 私立認こ 0名 公立保 0名 私立保 0名 国立幼 1名
4	10月27日	県教育研修センター	※ 第2回保育技術専門研修に参加 ○講義・演習「幼児理解を深めよう」	
5	1月22日	オンライン	○実践報告会「園内研修の成果と課題」 ○研究協議「中堅教諭としての役割」	

④ 保育技術専門研修 ※平成5年度開始

平成5年度に「保育技術専門講座」として開設された国委嘱事業であるが、平成12年度に「保育技術協議会」、平成30年度に現在の名称になった。幼児教育施設の教員等に対して、保育技術に関する専門的な講義や実習等を行うことにより、幼児期にふさわしい生活を展開し、適切な指導を行うために必要な技術の向上を図る。中堅教諭等〔前期・後期〕資質向上研修（幼児教育）を兼ねる。

期	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	6月25日 6月30日	県教育研修センター	※ 参加者多数のため、同内容で2回実施 ※ どちらか1日に参加 ○講義・演習「障害のある幼児の理解と対応」	公立幼 49名 私立幼 6名 公立認こ 37名 私立認こ 32名 公立保 42名 私立保 25名 国立幼 1名
2	10月27日	県教育研修センター	○講義・演習「幼児理解を深めよう」	
3	11月17日	県教育研修センター	※ 第3回保育技術専門研修に参加 ○講義・演習「環境の構成について」	県立 1名 行政 2名 計 195名

※ 第1回・第3回には中堅教諭等〔前期〕資質向上研修受講者37名、第2回には中堅教諭等〔後期〕資質向上研修受講者21名を含む。

⑤ 幼児教育教育課程研究協議会 ※平成12年度開始

平成30年度までは「幼稚園教育課程研究協議会」という名称であったが、令和元年度から現在の名称となった。幼稚園教育理解推進事業（都道府県協議会）を受けて、幼稚園等の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等についての研究協議を行うことにより、日々の実践や各幼稚園等における教育課程等を見直し、幼児教育の充実を図る。

期 日	会 場	内 容	参加状況
8月4日	県教育研修センター	○基調講演「架け橋期の充実につなげるための園内研修の在り方」 ○研究協議 協議主題「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」	公立幼 54名 私立幼 1名 公立認こ 26名 私立認こ 12名 公立保 5名 私立保 5名 県立 0名 国立 0名 行政 4名 計 107名

※ 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修受講者37名を含む。

⑥ 園長等専門研修 ※平成12年度開始

平成6年度に「園長等専門講座」として開設された国委嘱事業であるが、平成12年度に「園長等運営管理協議会」、平成30年度に現在の名称となった。幼稚園及び幼保連携型認定こども園の初任園長等を対象とし、園の運営や管理、保幼小の接続等について専門的な研修を行う。

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	6月6日	オンライン	○講義「配慮を要する幼児への対応」 ○講義「職員の育成」	公立幼 15名 私立幼 15名 公立認こ 5名 私立認こ 19名
2	10月23日	県教育研修センター	○実践発表「園内研修の効果的な実施」 ○講義「幼児教育施設における食育」 ○講義・研究協議「小学校教育との連携・接続の在り方」	公立保 12名 私立保 45名 計 111名

⑦ 幼児教育担当指導主事等研修会 ※昭和45年度開始

幼児教育の在り方について情報交換や協議を通して共通理解を図り、指導主事等の資質の向上及び幼児教育に係る各種事業の円滑な実施を図る。

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	4月16日	オンライン	○報告・協議「本年度の各種事業について」	県 10名
2	5月21日	オンライン	※県教育庁教育企画部生涯学習就学前教育・家庭教育推進室と合同開催 ○講義「幼稚園等訪問指導のポイント」 ○講義「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて～県の施策を踏まえて～」	市町村 55名 県 13名 計 68名
2	2月4日	オンライン	○協議「各種事業についての反省と次年度の事業」	県 12名

(2) 幼児教育指導資料作成会議（「茨城の幼児教育第51号作成」） ※昭和43年度開始

幼児教育における当面の課題をとらえ、教育課程の編成や指導方法等の改善を図るための研究を行うとともに、研究成果を幼児教育指導資料として取りまとめ、県下の幼児教育施設に配付し、本県の幼児教育の充実に資する。

回	期 日	会 場	内 容	参加状況
1	6月9日	県教育研修センター	○研究テーマに基づく実践事例作成 テーマ「保育者と保護者との連携の在り方とその可能性」 ○県幼児教育研究推進校による保育実践研究 等	学識経験者 1名 公私立幼 2名 公私立認こ 2名 公私立保 2名 小学校教諭 1名 研究推進校 1名 県 8名 計 17名
2	6月23日			
3	12月2日			
4	1月26日			

(3) 幼児教育に関する実践的調査研究事業（県幼児教育研究推進校）

幼稚園、認定こども園における教育課程及び保育課程の編成の在り方、指導方法等幼児教育の当面している課題を実践を通して解明するため、県教育長が幼児教育推進校を指定し、当該研究推進校を所管する市町村及び市町村教育委員会に幼児教育に関する実践的調査研究事業を委託する。研究の成果については、幼児教育指導資料（掲載）及び幼児教育指導方針説明（ウェブ配信）で発表する。

年 度	研究推進校	研 究 主 題
令和7・8年度	筑西市立 認定こども園せきじょう	遊びの連続性を深める環境構成の在り方 ～保育エンゲージメントの向上とともに～

Ⅱ 保護者や地域との連携が作りだす 保育・教育の可能性

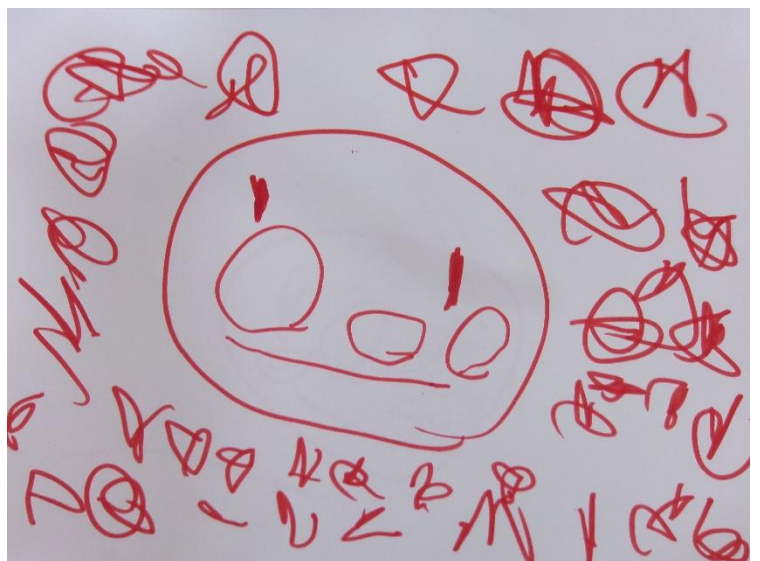
～アンケートの活用を通して～

- 1 実践事例解説
- 2 資料の事例を読み、活用するにあたって
- 3 実践事例一覧
- 4 実践



「サンタさんはやくこないかな」
とうかい村松宿こども園 5歳児

「アンパンマン」
牛久市立第一幼稚園 3歳児



1 実践事例解説

保護者や地域との連携がつくりだす保育・教育の可能性

～アンケートの活用を通して～

國學院大學人間開発学部子ども支援学科

教授 山瀬 範子

令和7年度幼児教育指導資料作成研究事業では、①アンケートを活用して保護者や地域のニーズや子ども理解について把握し、②アンケートにより把握したことを基に保育実践や保護者・地域との関わりに取り組み、③改めてアンケートを通して変化を捉えて保育実践や保護者・地域との関わりについて考えるという方法で、アンケートの活用を通して保護者や地域との連携による保育・教育の充実を図るための研究に取り組みました。

就学前の子どもの生活は家庭と地域、幼稚園・保育所・認定こども園等の場で連続性をもって営まれ、子どもは保護者や地域住民、教師・保育者との関わりの中で育ちます。このような生活の連続性や子どもを取り巻く大人それぞれの役割の大切さを踏まえたとき、教師・保育者にとっては、子どもの育ちを支えるため、幼児教育・保育における実践だけでなく、家庭や地域で子どもと関わる大人たちの幼児期の教育への理解を深めることも大切な役割です。

子どもの育ちの場としての家庭や地域を見たとき、現代社会の持つ特徴による課題、便利な世の中になったからこそその課題があります。今、子育てを担う世代は少子化や一人っ子化の中で育ち、子どもの育つ姿や子どもとの関わり方をよく知らないまま親になる人も少なくありません。子ども期の重要性が広く知られ、子どものために大切なこと・望ましいことへの理解が広がる中で、子どもを愛しく思い、子どもを大切に育てようとするからこそ、「これでよいのか」、「もっと良い方法があるのではないか」、自問自答を重ね続けることもあるでしょう。情報化社会の進展により、子育ての負担感や孤立感、不安感を抱える人たちがつながり支え合う関係を作ることができるようになる一方で、たくさんの情報を手軽に入手できるようになったため、玉石混交の子育ての情報があふれる中で、迷い戸惑うこともあります。また、交通機関が発達し、通勤できる範囲、手軽に楽しめる地域が広がって利便性が向上した一方、隣近所で過ごす時間は減り、身近な地域の中で大人と子どもが交流する場や機会が失われることもあります。変化の激しい社会の中で、子どもの育ちと子育ての不易流行を踏まえながら、子どもの健やかな発達のために必要な生活や大人との関わりを支

えていくことが求められているのではないのでしょうか。

平成 29 年に改訂（改定）された 3 つの指針・要領や学習指導要領においては、「開かれた教育課程」のもと教師と保護者・地域が協働して教育を担うこと、「幼児期の教育のセンター」としての役割を果たして家庭や地域における幼児期の教育の理解が深まること、保護者が子ども理解を深め「子育ての喜び」を感じられるように努めることを示す中で、教師・保育者と保護者、地域が子どもの育ちを支えるそれぞれの役割を担って協働することが期待されています。特に、子どもの育ちの専門家である教師・保育者は、幼稚園・保育所・認定こども園等が持つ特性を活用して、様々な機会や場を通して、子どもを取り巻く大人に対して、子どもの発達やそのために大切なことの理解を促したり、子どもが環境との関わりの中で健やかに育つ姿の実際を伝え、子どもの周囲の大人と共に喜びあったりする必要があります。

このような役割を果たすために、教師・保育者は、日常の送迎時のやり取りや連絡帳、お便りを活用して子どもの育ちの情報を共有していますし、保育参観・保育参加、保護者会であったり、運動会等の様々な行事の場なども活用して子どもの育ちに触れたり、理解を深めたりする機会を設けています。日常の保育や行事の中で園外の資源を活用し、地域との交流を図ったりもしています。これらの場や機会を通して教師・保育者は保護者や地域住民の思いやニーズを質的に把握し、その思いやニーズを踏まえた支援を考え、実施しています。これに加えて今回の研究事業では、保護者や地域の思いやニーズを捉える方法としてアンケートの活用を試みました。アンケートは同じ項目で対象となる回答者全員の考えを伺うことができるため、量的な把握が可能となりますし、回答者は都合のよい時間に回答を行うこともでき、普段、来園しない地域住民なども対象とすることができます。設問を基に回答を選択したり、書くことで、保護者や地域住民が子どものことや保育のことなどを考えたり、自分の思いを意識したりする機会にもなります。対面的なコミュニケーションの中では表現しにくい思いを形にすることもできるかもしれません。日頃のコミュニケーション等を通して行う質的な捉え方とアンケートによる量的な捉え方を通して、より多面的に、より細やかに保護者や地域の思いやニーズの把握が可能となります。幼児教育・保育の現場における ICT の活用が進む中で、インターネットを利用した Web アンケート機能を利用しました。指導主事からは活用例として Google フォームの使い方を紹介くださいました。Web アンケートは比較的簡単に設定し、URL や QR コードを通して対象者に周知して回答していただくことが可能です。集計された形で結果をみることもできるという把握しやすさもあります。

作成委員の各園では、テーマとキーワードを設定し、自園の実態（地域の様子・特徴、保護者の思い、保育者の思い）を基にアンケート項目を作成して 1 回目のアンケートを実施し、アンケート

結果を基に地域や保護者、保育者の状況を把握し、課題となることを整理しました（①アンケートを活用した保護者や地域のニーズや子ども理解の把握）。アンケートから捉えた理解を基に保育を計画・実践したり、保護者や地域に向けて情報を発信したり、保護者や地域と子どもたちが関わる実践を計画・実践しました（②アンケートによる把握を基にした保育実践や保護者・地域との関わり）。この実践が各事例の「取組事例」の中に紹介されています。実践ののち、同じアンケート項目を使って2回目のアンケートを実施し、1回目と2回目のアンケート結果の比較、実践の振り返りを基に保護者・地域の思いやニーズの理解を深め、次の実践や情報発信に向けて何を行うのか考えるための材料としました（③アンケートを通して可視化した変化を基にした保育実践や保護者・地域との関わりの検討）。今回の研究に取り組むことを通して、各園において、いろいろな気づきがありました。コロナ禍で地域との交流の機会が乏しくなっていたことに気づき、あらためて、地域との交流の機会に取り組んだ園もありましたし、量的な把握を通して保護者が保育を理解してくださっていることに確かな手応えを得ることができた園もありました。

今回の研究を進めるにあたって、作成委員の皆さまには「大きな無理をしないで、ちょっとしたことに取り組み続ける」ことをお願いしました。PDCAのサイクルの中にアンケートの活用を位置づけ、量と質の把握による多面的な理解を基にした実践の検討はこれから保育の質を向上させるためや保護者・地域と協働して子どもを育むための基盤として、継続して活用していただける方法です。過度な負担になるような取り組み方や大きな成果を求めようとする取組みになってしまうと、1回だけは取り組めるかもしれませんが、継続して取り組める方法とするのは難しいでしょう。取り組んでいることを意識し、取り組んでいることを見直しながら協働していくための方法の一つとして今回の方法を位置付けていくために、ちょっとしたことに取り組む、可視化できたものを基に考えることを意識していただくようにしました。2回のアンケート結果を比較した時、大きな差や大きなプラスの変化はありませんが、そもそも、そのような成果を上げるための取り組みや研究ではありません。研究に参加してくださった全ての園が保護者や地域の思いやニーズを捉えるための試行錯誤をして、可視化できたものを基に保育や子育て支援を考えて実践し、様々な形での手ごたえを得て、続けていきたいことや次にやってみたいことを見出したことがとても素晴らしいことだと考えています。

実践事例の中には、取り組み方のヒントや把握したことを活用するためのヒントがたくさんあると思います。この資料集をご覧になってくださった方が、ちょっとやってみようかなと思って取り入れてくださることにつながることを願っています。

2 事例を読み、様式を活用するにあたって

幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年2月）及び小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編（文部科学省 平成29年7月）では、「学校評価とカリキュラム・マネジメントとの関連づけ」と「家庭や地域社会との連携」の重要性が明記されました。

それらを受け、本事例集は、「保護者や地域との連携が作り出す保育・教育の可能性」をテーマとし、学校評価であるアンケートを活用した各園校の園経営または学校経営に生かすための方向性を示す実践例としてまとめました。

それぞれの事例は、5種類のワークシート様式1～5をもとにまとめられており、様式を統一することで、読む人がそれぞれの事例を捉えやすくなるよう努めました。

付録として掲載した様式1～5のワークシートを活用し、自園のキーワードを埋め込み、学校評価をもとにしたカリキュラム・マネジメントに取り組んでみてください。

様式1

様式2

様式3

様式4

様式5

様式1

私立幼稚園
幼稚園型認定こども園
テーマ
「一人一人が自分らしく
生きる力を身に付ける」



テーマに迫るためのキーワード

意欲の芽生

思いやり

あきらめない

子どもの育ちを支える力

様式1は、地域の教育方針やこれまでの在り方をもとに、重点としたいことについて、焦点化するワークです。



・グランドデザインや教育目標、すでにある園施設のホームページなどをもとに、キーワードとなるものをまず4つほど挙げてみましょう。



・学級数や園児数などを経年で捉え、影響を受けている社会環境や現象など、人的又は物的体制について焦点化します。

・「地域の様子・特徴」、「保護者の思い」、「保育者（指導者）の思い」を具体的に表記します。

・様式 1 で掲げた 4 つのキーワードから、さらに 2 つに絞ることで、今年度の重点が方向づけられます。

・アンケートが似通ったものにならないように、キーワードを選定するとよいでしょう。

様式 2 は、園の基本情報をもとに、地域の特徴や時代の流れによる環境の変化等をもとに課題や資源について焦点化するワークです。

様式 2

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
3歳児	38人	45人	43人
4歳児	31人	43人	47人
5歳児	49人	36人	46人

- 地域の様子・特徴について
 - ・本市は都心のベッドタウンとして発展しているが、本園のある地区は自然が多く残る落ち着いた地域である。
 - ・研究学園都市に隣接し、保護者の教育への関心は高い。
- 保護者の思い
 - ・家庭ではできない経験を園でしてほしい。
 - ・運動会などの多様な体験から、挑戦する心や探究心を育ててほしい。
- 保育者（指導者）の思い
 - ・友達と一緒に挑戦する経験を通じて、協力する心（協調性）やコミュニケーション力を育みたい。
 - ・行事を通じて「最後までやり遂げる力」を育てたい。
 - ・保護者と連携し、一人一人の成長を大切にしたい保育を実践したい。

・「園の特色」となるところに、アンダーラインを引いています。

アンケート作成のためのキーワード

意欲の芽生え、子どもの育ちを支える力

アンケートの基本項目

意欲の芽生え

- 本園の活動を通じて、子どもが新しいことに挑戦しようとする姿勢がみられる。
- 家庭でも、園での体験をきっかけに自分からやってみようとする行動がみられる。
- 地域の卒園児なども来園し、運動会などの行事をやり遂げようとしている。

子どもの育ちを支える力

- 本園は、子ども一人一人の意欲や挑戦を大切にしている。
- 保育者は、友達と協力できるような環境や声掛けに工夫をしている。
- 運動会に向けた指導や取組を通して、子どもが安心して参加できる体制が整っている。

・「基本項目」をもとに、地域向け、保護者向け、園内（校内）の職員向け、3種類のアンケートを作成する。



山瀬 範子 教授

國學院大學
人間開発学部 子ども支援学科

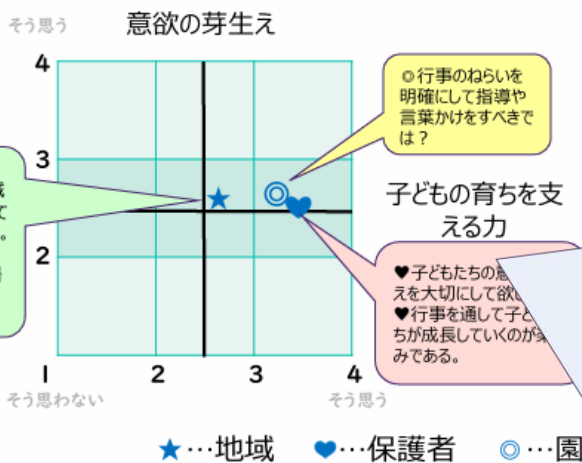
アンケートの意義と機能について

<アンケートの位置づけ>

- 子どもの育ちや保護者等の思いを知るために。
 - ・保育観・子ども理解、保護者理解などを共有する。
 - 保護者等、保育者等が「考える」「意識する」機会に。
 - ・対話や相互理解の機会として活用ができる。
 - アンケートを通して、可視化することが重要
 - ・実態を捉えた検討→実践→振り返り→次の取り組みを考える。
- ※ 各園・施設の実態、子どもの実態に即した実践
- ※ 意識して取り組み、次の方向を見ることができることが大切

様式3

7月（運動会前）のアンケートより



アンケートからの捉え

- 地域（卒園児も含む）
 - ・地域の行事ととらえており、運動会に対する関心が高い。
 - ・暑い時期なので子どもたちの体調が心配である。
 - ・子どもたちの元気な姿が励みになる。
- 保護者
 - ・子どもたちが自主的に取り組む姿や、運動会を通じた成長をととても楽しみにしている。
 - ・子どもたちの自主性に配慮した指導を、職員には心がけてもらうようお願いしている。
 - ・運動会での成長や経験を、さらに今後の行事（マラソン大会やお遊戯会など）に活かすことを意識した指導をするようお願いしている。
- 園
 - ・子どもたちの個性に寄り添いつつ、クラスのまとまりも考慮して指導をすることを今まで以上に意識するようお願いしている。
 - ・行事や種目を通して、子どもそれぞれの「挑戦する気持ち」を意識した指導をお願いしている。
 - ・暑い季節に実施するので、指導に熱が入りすぎて、休憩や水分補給にするなど、子どもたちの健康面にも配慮しなければならぬ。

様式3は、集約したアンケートの回答を点数化し、プロットするワークです。プロットして見ることで評価が可視化されます。

アンケートのプロット方法について

・マス目の値は縦軸、横軸ともに1、2、3、4である。（4観点で回答いただいているため）
 例) 保護者120名の回答から、回答結果の平均を出したところ、キーワードAは2.5、キーワードBは3.2であった場合、座標の♥で表される。同じように、園の職員は◎、地域は★でプロットする。
 ※変化が分かりやすいように、1回目を青色でプロットする。

<集計の方法>

- 例) アンケート回答数250の処理
- ①各選択肢の点数と回答数を掛け算して計算する。
 キーワードAの質問1について
 質問1… 1点: 105→105点
 2点: 75→150点
 3点: 20→60点
 4点: 50→200点
 - ②合計点を出す。
 $105+150+60+200=515$
 - ③②の合計を回答数で割って点数を出す。
 $515 \div 250 = 2.06$
 同じように質問2、質問3も処理する。
 例えば、質問1: 2.06
 質問2: 1.56
 質問3: 2.73 だった。
 - ④キーワードAの各質問1～3の平均の合計を出し、さらに平均を出す。
 $(2.06+1.56+2.73) \div 3 = 2.116$ …
 ※少数第2位を四捨五入し、少数第1位まで出す。

※アンケートフォーム作成ツールを活用し、集計もスピーディーに!

オンラインでアンケートを作成できるサービスを利用すれば、地域や保護者等の学校評価を集約できます。オンラインなので、自動的に集計をしてくれます。



↑アンケートの例作成の際、参考にしてみてください。

<アンケート作成の留意点>

- ・同じ方に複数回アンケート回答にご協力いただけるように、計画すると評価として信憑性が高まります。
- ・質問が多すぎると協力者も減ってしまいます。5問程度だと負担感も少なくなります。
- ・記述式の回答(任意回答)を設定すると、広い視野のアイデアが集約できます。

評価が低いと、つらい気持ちになるかもしれませんが、改善のチャンスと捉えて、いただいた意見に感謝しましょう。

意見を出した人も「協力してよかった。」という気持ちになるはずです。



様式 4 は、様式 3 で可視化された課題について、集約した意見をもとに、改善策を考えたり、新たなアイデアで園や学校の工夫を取り入れるワークです。

評価をもとに、園や学校の経営改善に生かしていくことが、重要です。

行事を計画する際に、「例年どおり」ではなく、外部評価のアイデアを意識して、工夫してみることで、「変化が起こる可能性」を楽しみましょう。

様式 4

取組事例

① リレーの作戦会議

5歳児

作戦会議



バトンの練習風景



園児が運動会のリレー種目に自主性をもって取り組めるように作戦会議を行った。はじめに、「なぜ、これまでは遅かったのか」を考えた。すると、子どもたちから「バトンの受け渡しがよくなかった」「こうすれば早く走れるよ」「応援が足りなかった」など、多くの意見が出てきた。次に、「じゃあ、どうすればいいかな」と問いかけ、子どもたちが自ら考える時間を設けた。すると「バトンの受け渡し練習をしよう！」という声があがり、さっそく練習に取り組んだ。この様に、園児自らが課題を見つけ、対策を考えて取り組むことで、本番ではリレーのタイムがよくなり、さらには、応援の声も大きくなって、競技が盛り上がった。

② 玉入れ

3歳児

モールを付けたカゴ



競技風景



3歳児の玉入れ競技について、職員間で「玉の入る数が少ない」という声が上がった。そこで、玉の投げ方の指導として、目標物をよく見て投げるようにという声掛けを園児にした。その際に、子どもたちから「カゴの枠が光ればいいのに」という声が上がった。設備の面で、LEDなどを枠に設置することは困難だったが、枠を目立たせるためにキラキラと光るモールを試しに設置してみた。すると、園児が玉を投げるときにキラキラモールを目掛けて投げられるようになり、玉の入る数が増えた。

取組事例

③ プレイバルーン

プレイバルーンの練習風景



演技の最中、バルーンを膨らませる際に、グラウンドの砂が舞ってしまい、児が演技に集中できない様子が見られていた。これまでも、砂対策として演技前後にグラウンドへの水撒きを行っていたが、気温が高く、すぐに乾いてうため、効果が不十分だった。そこで今回、グラウンドの上で砂が溜まりやすい箇所を特定し、砂を除去するという対策を行った。その結果、砂が舞うことを軽減することができ、園児は演技により集中して取り組めるようになった。練習もはかどり、本番でも思い切った演技を行うことができた。

ミストシャワーを設置した入場門付近



④ 暑さ対策

3~5歳児

近年の暑さ対策の必要性について、事前アンケートで保護者から「園児席にミストシャワーを設置するといいのではないか」という意見があがった。この意見を取り入れるためにミストシャワーの園児席への設置を試みたが、水場の位置との兼ね合いで園児席への設置は困難だったものの、園児が待機する時間が長い場所ならば設置が可能である事が分かり、入場門の付近から最後尾の位置にかけてミストシャワーを設置することとした。その結果、実際に涼しさを体感することができ、練習時間の確保と、園児のモチベーション維持につながった。

「変化が起こる可能性」
を楽しむ…

今年の〇〇会は地域の□□さんのアイデアを取り入れてみましょうか。

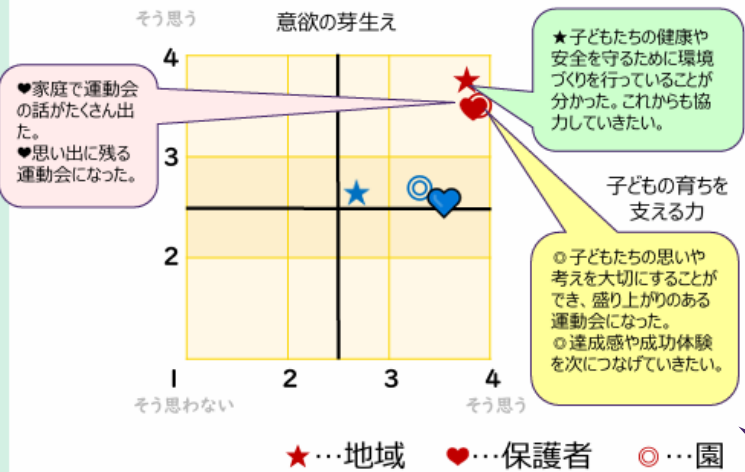
参加も募集しましょう。



様式5

9月(運動会后)のアンケートより

青…7月 赤…9月



変化から見てきたこと…

リレーや玉入れなどの競技について、「もっと上手にするにはどうしたらよいか」を問う時間を各クラスで設けた。すると、5歳児だけでなく、3歳児のクラスでも、園児からいろいろな意見や、改善のアイデアを引き出すことができた。そして、それらのアイデアをもとに、練習を重ね、また設備面での改善策を講じることで、本番ではのびのびと運動会を楽しむ園児の姿が見られた。

さらには、今回のアンケート実施によって、家庭でも園児の自主性を育む意識が高まり、本番に向けて、よりよいコンディション・モチベーションで取り組めるような声掛けなどを行うことができたようである。

運動会開催前の意見を参考にすることで、園と家庭、地域の三者が連携した運動会への取組ができたと思う。次年度も三者を巻き込むことで、子どもたち一人一人が自分らしく達成感を持つ行事につなげるために、引き続き「意欲の芽生え」と「子どもの育ちを支える力」をキーワードに取り組んでいきたい。

【育てたい10の姿】

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

次年度のキーワードは… 意欲の芽生え、子どもの育ちを支える力

様式5は、2回目に集約したアンケートの回答を点数化し、プロットするワークです。(プロットのための点数化の処理については、様式3を参照)

1回目のアンケートのプロットと2回目のアンケートのプロットの変化を見取ることによって、工夫や改善したことについて、フィードバックすることができます。

- ・ 1回目のアンケート結果は青色でプロット
- ・ 2回目のアンケート結果は赤色でプロット
- ※ 変容を可視化するため、青と赤の両方で表示しています。

- ・ 事例を経て、育まれたと認められる子どもの姿を、10の姿で、評価しています。

今年度の学校評価で課題となった△△について、次年度のグランドデザインに組み入れますか。



2回目の結果が必ず良くなるとは限りません。また、変化が必ず起こるとも限りません。

外部の評価を取り入れながら、PDCAのサイクルを回し続け、園や学校が改善していくための「手がかかり」となるものを探し、生かしていくという意識をもつことが大切です。

次年度の「キーワード」を設定する際に、参考となるもの

- ・ 幼稚園教育要領 (文部科学省 平成29年3月)
- ・ 幼保連携型認定こども園教育 (内閣府/文部科学省/厚生労働省 平成30年3月)
- ・ 保育要領保育所保育指針 (厚生労働省平成30年2月)
- ・ 教育課程企画特別部会 論点整理 (文部科学省 令和7年9月25日)
- ・ 学校教育指導方針 (茨城県教育委員会)

3 実践事例一覧

実践園・校	テーマ
幼稚園	「主体的な遊びが発展していくための環境の構成と援助」
幼稚園型認定こども園	「一人一人が自分らしく生きる力を身に付ける」
幼保連携型認定こども園	「安心できる環境の中で、人と関わる力を育む」
幼保連携型認定こども園	「小学校接続に向けた非認知能力を育てる」
保育所	「信頼を育て、つながりを深める幼小連携」
保育園	「未来を切り拓いていく力を育む」
小学校	「他者との関わりを通して、自ら考え判断し、行動する」

<事例の表記について>

- 1 本資料の実践事例では、教育課程や指導改善の進め方について提案できるよう、その様式を整えました。園の方針や指導の課題をもとに、カリキュラム・マネジメントを進めるという視点から、各事例をお読みいただきたいと考え、幼児教育施設の園種名を記載させていただきました。
- 2 写真については、プライバシー保護の観点から、子どもの顔が判別できないよう「ぼかし」を入れました。

公立幼稚園

テーマ

「主体的な遊びが発展していく
ための環境の構成と援助」



テーマに迫るためのキーワード

主体的な遊び

情報発信

様々な体験活動

環境の工夫

本園について

	2023年	2024年	2025年
3歳児	20人	17人	13人
4歳児	19人	19人	18人
5歳児	15人	22人	24人

- 地域の様子・特徴について
 - ・ 近隣に保育園・小学校があり、中学校は隣接している。幼保小中と交流し、連携活動を進めている。
 - ・ 地域の方が園を参観し行事に参加したりして、温かく見守ってくれている。
- 保護者の思い
 - ・ 園で様々な体験や経験をたくさんしてほしい。
 - ・ 友達や保育者と一緒にいろいろなことに挑戦してほしい。
 - ・ 保護者と子どもが触れ合える時間をもちたい。
- 保育者の思い
 - ・ 自分たちで考え、主体的な活動をするとともに自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。
 - ・ 何事にもあきらめずに挑戦してほしい。
 - ・ 保護者へ園での活動を知ってもらうために主体的な遊びを発信していきたい。

アンケート作成のためのキーワード

主体的な遊び、情報発信

アンケートの基本項目

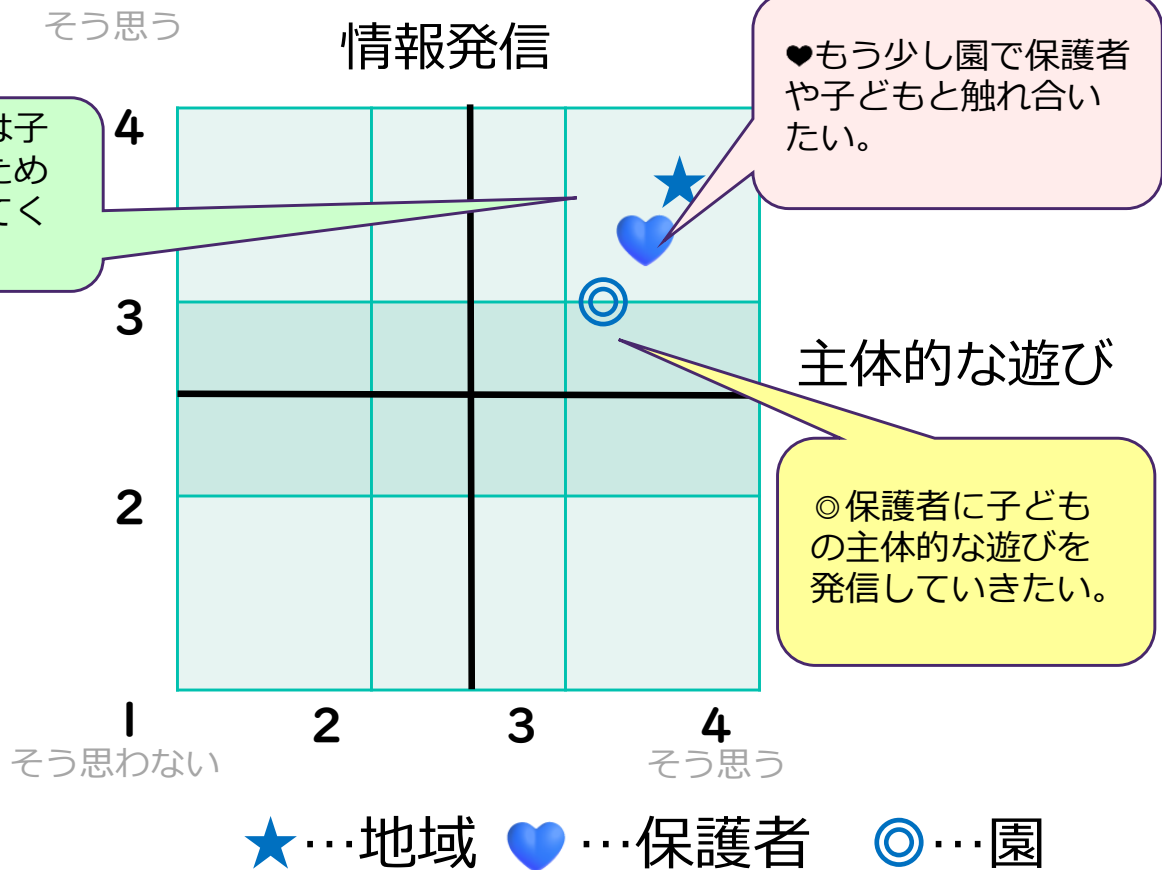
主体的な遊び

- 本園は、一人一人の興味・関心を大切にした保育に努めている。
- 本園は子どもが安心して遊び、様々なことに挑戦できる環境づくりに努めている。
- 本園での遊びの中で、子どもが「自分で考えて行動している」と感じる。

情報発信

- 先生は幼稚園での様子を知らせている。
- 保育参観・懇談会で本園での子どもの様子を見たり、聞いたりできている。
- 本園は、地域の人達と交流している。

7月のアンケートより



アンケートからの捉え



- 地域
 - ・地域の子どもたちの健やかな成長のために温かく寄り添ってくれている。
 - ・近隣の幼稚園、保育園、小学校と交流で終わっていることが多い。よりよい活動にするために、交流後の振り返りをする時間を十分に取りたい。
- 保護者
 - ・保護者同士触れ合える機会があったら、もっと親しくなれると感じている。
 - ・今までできなかったことも自然とできるようになり、様々なことにもチャレンジしている保育がよいと思う。
- 園
 - ・園児たちの主体的な遊びを保護者に伝える機会が少ないため、増やしていきたい。
 - ・教師の資質向上のため、研修を増やしていきたい。

取組事例

5歳児

形成



本焼き



① 陶芸教室

地域交流の一環として牛久市在中の陶芸家を呼び、毎年陶芸教室を行っている。園児のみの陶芸教室であったが、今年度は、地域、園、保護者の交流を深めたいと考え保護者の方に参加を依頼した。粘土形成は園児と保護者でどんな物を作るかを決め、親子一緒に皿やコップ等を作成した。粘土に触れた園児たちは「柔らかい」といつも使っている粘土の質感と違うことに気付いていた。

同じグループの保護者同士も、互いに声を掛け合って交流をもちながら作成していた。

2か月後のゆう葉での色付けは園児が行い、保護者は自由に参観してもらった。焼きあがった作品を見て園児たちは「ぱりぱり音がしている」「燃えてる」など歓声を上げていた。

できあがった作品は、園で飾り、保護者の方にも見てもらう時間を設けた。

サツマイモ掘り



主体的な遊び



② サツマイモ掘り

3~5歳児

イモ掘り当日、つるを思い切り引っ張る姿が見られ、友達と一緒に「うんとこしょ、どっこいしょ」と言いながら一生懸命に引っ張っていた。土の中を掘り始め、大きなイモが出てきた園児は「大きいのとれた」と喜んでいて。5歳児は、イモやつるを園庭に運び、みんなの手の届く場所に置いた。教師と一緒につるを丸くしてリースを作っている園児もいた。縄跳びをしたり、綱引きをしたり、電車ごっこになったりと園児の主体的な遊びに発展していった。また、5歳児が重さや大きさなど自分で持って判断し、大、中、小に並べていた。並べ終わった後には、数を数えてみんなの分があるか考えている園児もいた。その日の午後には、4,5歳児が体験したことを絵で表現していた。

園児たちは思いを遊びで表現し、十分にイモ掘りを楽しんでいる姿があった。持って帰ったイモを家庭で料理して弁当で持ってきていた子も多く、味覚でも楽しめた。イモ掘りは五感が刺激される豊かな体験となった。

取組事例

5歳児・保護者

③ 保育参観・懇談会

懇談会



環境設定



10月の保育参観の後の懇談会で“遊びは学び”の文科省から出ている動画を視聴した。非認知能力という目に見えない力を育てその力を教師は、日々の遊びから引き出し保育を進め、主体的な遊びができるようにしているということ話をした。

担任からは実際の遊びの話をしながらどんな遊びが主体的な遊びなのかを園児の遊びの写真を見ってもらいながら具体的に話をした。写真の姿から遊びの中にどのような学びがあったか、10の姿なども話の中に入れてながら保護者に分かりやすく伝えた。

園長は、園で培った力が、小学校の学びにつながっていて、高等学校まで続けて育んでいくものなので今の学びを大切にしてほしいということ話をした。保護者はうなづきながら和やかな雰囲気話で話を聞いていた。

また、保育室にはイモ掘りでの体験や経験を写真や子どもたちが学んだことを掲示することで懇談会に参加できない保護者にも園児たちの学びの姿が見えるよう環境の設定をした。

5歳児・5年生

④ 幼保小交流

縄跳びの交流

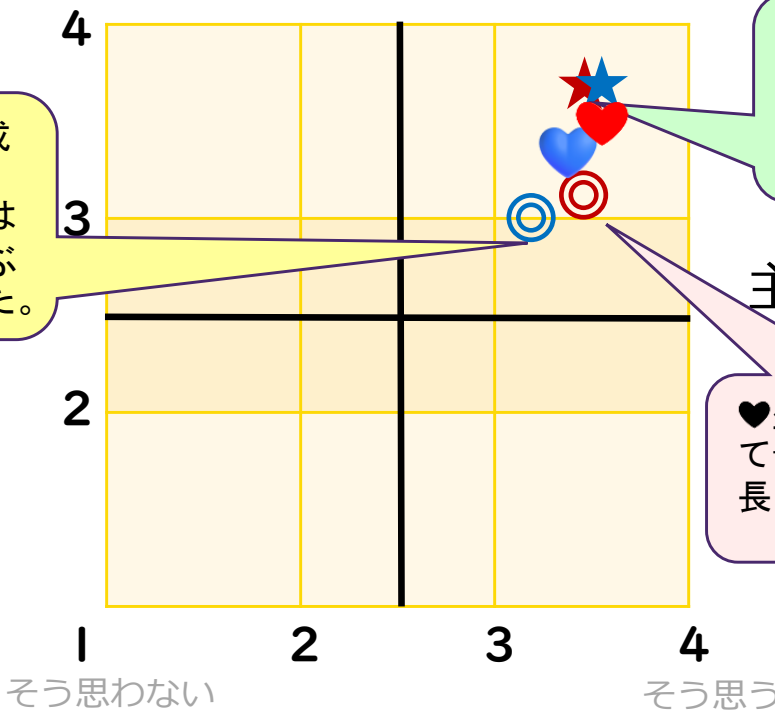


学区内の幼稚園2園、保育園3園、小学校1校で交流活動を行っている。12月は、5年生と年長児の交流を行った。教師間の打ち合わせの時間があまりもてないため今年度は、幼保小の会議の際に、昨年度の反省をもとに話し合いをもった。そこで小学校が各幼稚園・保育園に事前にどんな遊びを園で行っているのか活動の内容の調査をし、その結果をもとに計画を立ててくれた。当日は、幼保園児中心の縄跳び遊びでの交流活動となった。

5年生は最初園児にどのような声掛けをすればよいのか分からず、園児も戸惑う姿が見られたが、少しずつ交流を図っていった。縄跳びの時間は、自然に話ができるようになり、お互いに緊張がほぐれていき、5年生は優しく丁寧に縄跳びを教えていた。園児は縄跳びを跳んでいる姿を「すごい！上手」と5年生に褒められると笑顔で喜んでいた。実施後、他園からも「小学校に対する安心感や期待感が高まった」などの意見があり、今後も機会があれば交流したいと望んでいた。5年生担任も「上級生として園児をリードする姿が見られお互いにメリットのある交流ができた」「今後も交流活動を続けていきたい」と話していた。

情報発信

そう思う



◎環境の構成を工夫でき、子どもたちは主体的に遊ぶことができた。

★交流活動を通して、子どもたちは、互いにより刺激となった。

主体的な遊び

♥生活発表会を見て子どもたちの成長を感じた。

★…地域 ♥…保護者 ◎…園

変化から見えてきたこと

幼保小交流では、小学校側のねらいと幼稚園・保育園側のねらいが達成でき、お互いに縄跳びの交流を通してよい刺激となった。また、交流後は、アンケートを取り活動でのよかった点・反省点などを聞くことができ来年度の改善点につながった。

園で“遊びが学び”という保育を保護者に伝えたことで園で行っている主体的な遊びを理解してもらえた。子どもの姿を参観した保護者は、アンケートに「いろいろなことに挑戦し頑張っている姿が学びとなって見られ成長を感じた」と載せていた。今後も理解してもらえる保護者が増えていくよう子どものドキュメンテーションを作っていくなど、保護者への発信方法を工夫していきたい。

【育てたい10の姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

次年度のキーワードは

情報発信・幼保小交流

幼稚園型認定こども園

テーマ

「一人一人が自分らしく
生きる力を身に付ける」



テーマに迫るためのキーワード

意欲の芽生

思いやり

あきらめない

子どもの育ちを支える力

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
3歳児	38人	45人	43人
4歳児	31人	43人	47人
5歳児	49人	36人	46人

- 地域の様子・特徴について
 - ・本市は都心のベッドタウンとして発展しているが、本園のある地区は自然が多く残る落ち着いた地域である。
 - ・研究学園都市に隣接し、保護者の教育への関心は高い。
- 保護者の思い
 - ・家庭ではできない経験を園でしてほしい。
 - ・運動会などの多様な体験から、挑戦する心や探究心を育ててほしい。
- 保育者（指導者）の思い
 - ・友達と一緒に挑戦する経験を通じて、協力する心（協調性）やコミュニケーション力を育みたい。
 - ・行事を通じて「最後までやり遂げる力」を育てたい。
 - ・保護者と連携し、一人一人の成長を大切にしたい保育を実践したい。

アンケート作成のためのキーワード

意欲の芽生え、子どもの育ちを支える力

アンケートの基本項目

意欲の芽生え

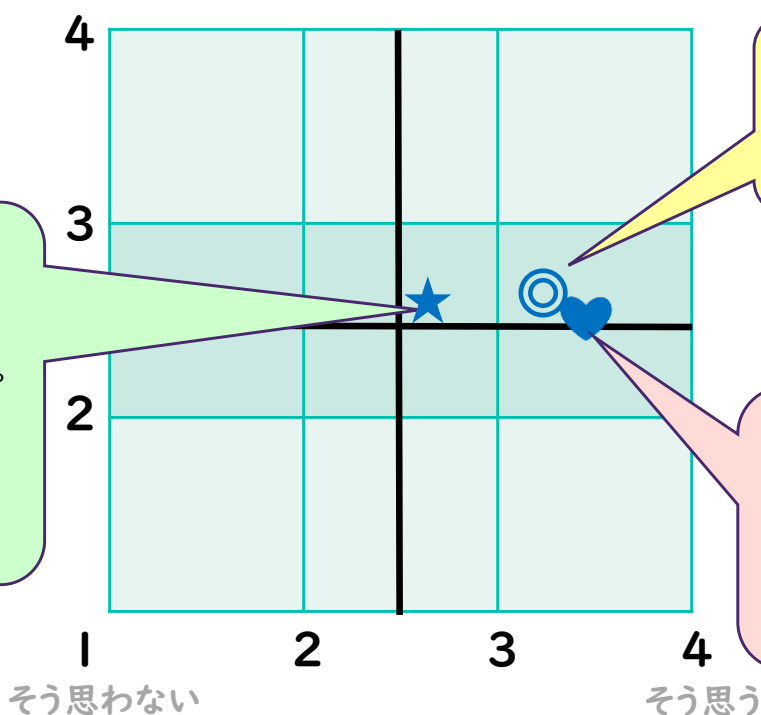
- 本園の活動を通じて、子どもが新しいことに挑戦しようとする姿が見られる。
- 家庭でも、園での体験をきっかけに自分からやってみようとする行動が増えている。
- 地域の卒園児なども来園し、運動会などの行事をやり遂げようとする姿勢が育っている。

子どもの育ちを支える力

- 本園は、子ども一人一人の意欲や挑戦を大切にしている。
- 保育者は、友達と協力できるような環境や声掛けに工夫をしている。
- 運動会に向けた指導や取組を通して、子どもが安心して参加できる体制が整っている。

7月（運動会前）のアンケートより

意欲の芽生え



◎行事のねらいを明確にして指導や言葉かけをすべきでは？

子どもの育ちを支える力

♥子どもたちの意欲や考えを大切にしたい。
♥行事を通して子どもたちが成長していくのが楽しみである。

★運動会開催を地域の行事として捉えている。
★その上で開催には暑さ対策が必要では？

★…地域

♥…保護者

◎…園

アンケートからの捉え



- 地域（卒園児も含む）
 - ・地域の行事ととらえており、運動会に対する関心が高い。
 - ・暑い時期なので子どもたちの体調が心配である。
 - ・子どもたちの元気な姿が励みになる。
- 保護者
 - ・子どもたちが自主的に取り組む姿や、運動会を通じた成長をととても楽しみにしている。
 - ・子どもたちの自主性に配慮した指導を、職員には心がけてもらうとよいのではないか。
 - ・運動会での成長や経験を、さらに今後の行事（マラソン大会やお遊戯会など）に生かすことを意識した指導をするとよいのではないか。
- 園
 - ・子どもたちの個性に寄り添いつつ、クラスのまとまりも考慮して指導をすることをまで以上に意識するとよいのではないか。
 - ・行事や種目を通して、子どもそれぞれの「挑戦する気持ち」を意識した指導を心がけてもらうとよいのではないか。
 - ・暑い季節に実施するので、指導に熱が入りすぎて、休憩や水分補給が疎かにならないようにするなど、子どもたちの健康面にも配慮しなければならない。

取組事例

5歳児

① リレーの作戦会議

作戦会議



バトンの練習風景



園児が運動会のリレー種目に自主性をもって取り組めるように作戦会議を行った。はじめに、「なぜ、これまでは遅かったのか」を考えた。すると、子どもたちから「バトンの受け渡しがよくなかった」「こうすれば速く走れるよ」「応援が足りなかった」など、多くの意見が出てきた。

次に、「じゃあ、どうすればいいかな」と問いかけ、子どもたちが自ら考える時間を設けた。すると「バトンの受け渡しの練習をしよう!」という声があがり、さっそく練習に取り組んだ。

この様に、園児自らが課題を見つけ、対策を考えて取り組むことで、本番ではリレーのタイムがよくなり、さらには、応援の声も大きくなって、競技が盛り上がった。

② 玉入れ

3歳児

モールを付けたカゴ



競技風景



3歳児の玉入れ競技について、職員間で「玉の入る数が少ない」という声が上がった。

そこで、玉の投げ方の指導として、目標物をよく見て投げるようにという声掛けを園児にした。その際に、子どもたちから「カゴの枠が光ればいいのに」という声が上がった。

設備の面で、LEDなどを枠に設置することは困難だったが、枠を目立たせるためにキラキラと光るモールを試しに設置してみた。すると、園児が玉を投げるときにキラキラモールを目掛けて投げられるようになり、玉の入る数が増えた。

取組事例

③ プレイバルーン

5歳児

プレイバルーンの練習風景



演技の最中、バルーンを膨らませるときに、グラウンドの砂が舞ってしまい、園児が演技に集中できない様子が見受けられていた。これまでも、砂対策として、演技前後にグラウンドへの水撒きを行っていたが、気温が高く、すぐに乾いてしまうため、効果が不十分だった。

そこで今回、グラウンドの上で砂が溜まりやすい箇所を特定し、砂を除去するという対策を行った。

その結果、砂が舞うことを軽減することができ、園児は演技により集中して取り組めるようになった。練習もはかどり、本番でも思い切った演技を行うことができた。

ミストシャワーを設置した入場門付近



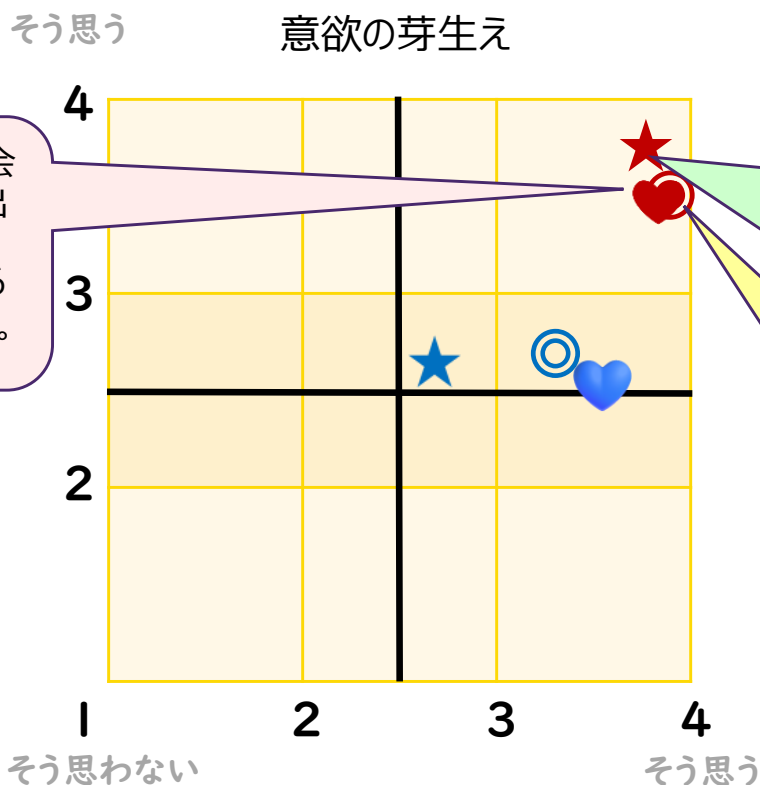
④ 暑さ対策

3～5歳児

近年の暑さ対策の必要性について、事前アンケートで保護者から「園児席にミストシャワーを設置するとよいのではないか」という意見があがった。

この意見を取り入れるためにミストシャワーの園児席への設置を試みたが、水場の位置との兼ね合いで園児席への設置は困難だったものの、園児が待機する時間が長い場所ならば設置が可能である事が分かり、入場門の付近から列の最後尾の位置にかけてミストシャワーを設置することとした。

その結果、実際に涼しさを体感することができ、練習時間の確保と、園児のモチベーション維持につながった。



♥家庭で運動会の話がたくさん出た。
♥思い出に残る運動会になった。

★子どもたちの健康や安全を守るために環境づくりを行っていることが分かった。これからも協力していきたい。

◎子どもたちの思いや考えを大切にすることができ、盛り上がりのある運動会になった。
◎達成感や成功体験を次につなげていきたい。

子どもの育ちを支える力

★…地域 ♥…保護者 ◎…園

変化から見えてきたこと

リレーや玉入れなどの競技について、「もっと上手にするにはどうしたらよいか」を問う時間を各クラスで設けた。すると、5歳児だけでなく、3歳児のクラスでも、園児からいろいろな意見や、改善のアイデアを引き出すことができた。そして、それらのアイデアをもとに、練習を重ね、また設備面での改善策を講じることで、本番ではのびのびと運動会を楽しむ園児の姿が見られた。

さらには、今回のアンケート実施によって、家庭でも園児の自主性を育む意識が高まり、本番に向けて、よりよいコンディション・モチベーションで取り組めるような声掛けなどを行うことができたようである。

運動会開催前の意見を参考にすることで、園と家庭、地域の三者が連携した運動会への取組ができたと思う。次年度も三者を巻き込むことで、子どもたち一人一人が自分らしく達成感を持つ行事につなげるために、引き続き「意欲の芽生え」と「子どもの育ちを支える力」をキーワードに取り組んでいきたい。

【育てたい10の姿】

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり	思考力の芽生え		自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

次年度のキーワードは

意欲の芽生え、子どもの育ちを支える力

公立幼保連携型認定こども園 テーマ

「安心できる環境の中で、人と
関わる力を育む」



テーマに迫るためのキーワード

様々な環境の中で

好奇心や探究心

豊かな感性

人と関わる

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
0歳児	7人	9人	8人
1歳児	15人	15人	15人
2歳児	15人	15人	15人
3歳児	24人	26人	28人
4歳児	28人	28人	28人
5歳児	27人	28人	28人

- 地域の様子・特徴について
 - ・教育認定児は学区内優先だが、学区内の子どもの数が少ないため、学区外からの入園も多い。保育認定児は村内各地から通園している。
 - ・学区の小学校との交流など、幼保小連携を進めている。
 - ・地域の子育て支援の拠点になっており、村内各地から入園前の親子が子育て支援センターに遊びに来ている。
- 保護者の思い
 - ・安心できる環境でのびのびと遊んでほしい。
 - ・たくさんの友達と関わって心豊かな子に育ててほしい。
- 保育者（指導者）の思い
 - ・園生活で様々な経験を積み重ねることで豊かな感性を育み、自立心や「人と関わる力」を育てたい。
 - ・保護者や地域の方と連携し、一人一人が安心して自己発揮できる環境を作りたい。

アンケート作成のためのキーワード

環境、人と関わる力

アンケートの基本項目

環境

- 本園は、園児が安心して生活できる環境を整えている。
- 本園の園児は、友達や園の環境に自分から関わり、のびのびと遊んでいる。
- 本園は、園児が様々な経験を積み重ね、豊かな感性を育むことができるような環境を工夫している。

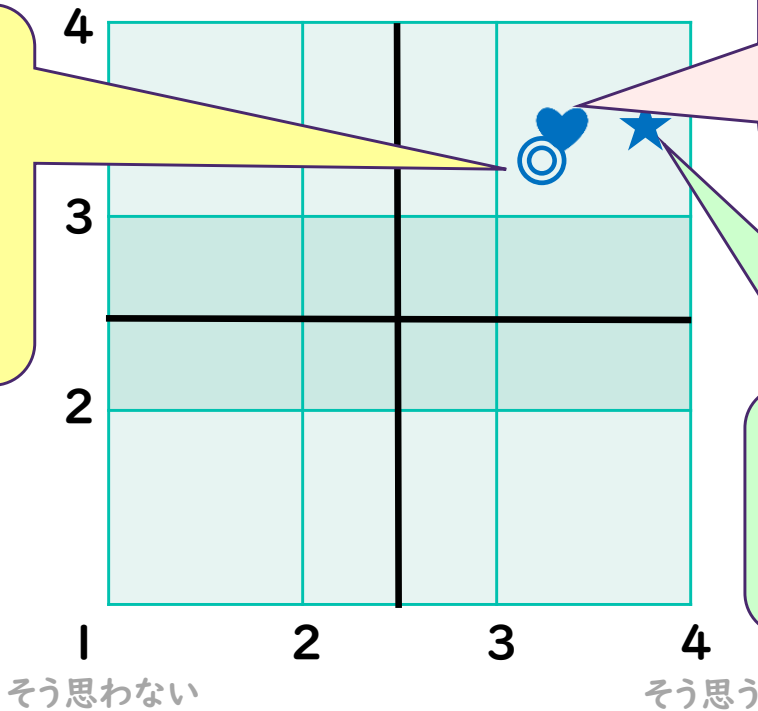
人と関わる力

- 本園は、園児が友達や様々な「人と関わる力」を育むことができるような活動を行っている。
- 本園の園児は、友達や様々な人と関わって遊ぶことを喜んでいる。
- 本園での様々な経験や人との関わりは、小学校での学びにつながっている。

7月のアンケートより

人と関わる力

そう思う



◎園内の環境を更に整え、園児が主体的に遊べる環境を作っていきたい。

♥家庭ではできないことを園でたくさん経験させてもらっている。
♥たくさんの友達ができて友達との関わりが上手になったらうれしい。

環境

★子育て支援センターを利用する中で、望んでいることは全て実現していただけています。

★…地域

♥…保護者

◎…園

アンケートからの捉え



- 園の保育活動に理解を示し、協力的な保護者が多い。
 - ・自分の子どもがもっと環境に慣れて友達とたくさん関われるようになってほしいと願う保護者や、異年齢児との関わりを大切にしたいという職員の見解もあった。
 - ・園での活動を更に工夫し、保育で大切にしていることをドキュメンテーションを通して保護者に引き続き丁寧に伝えていく。
- 小学校との関わりについて、もっと小学校に見通しをもった活動があるとよいという意見があった。
 - ・園生活では、遊びを通して学ぶことが小学校生活につながるという保育活動のねらいを保護者に伝えていく必要がある。
 - ・小学校との交流活動やつながりを保護者に発信していき、保護者が見通しや安心感をもてるようにしていく。
- 子育て支援センターに遊びに来ている方の中には、他園と比較しながら、入園する園を検討している方もいる。
 - ・園で行っている保育活動や園児の様子などを子育て支援センターに来ている地域の方にも見てもらえるとよい。

取組事例

①「やってみたい」を大切に した環境の取組（運動会）

3～5歳児

3歳児の取組



4歳児の取組



5歳児の取組



今年度の本園の運動会は、「やりたいことを楽しんで、わくわくする運動会」というキーワードを掲げ、園児自らが「やりたい」と思えるような環境を設定し、園児の主体性がエネルギーとなるような運動会を実施した。

この運動会で大切にしたいことを保護者にも事前に周知し、日々の保育活動の様子をドキュメンテーションを通して丁寧に伝えていった。

保育の中では、園児の「やってみたい」「ドキドキするけどやりたい」という気持ちをもてるように、自分で選択する運動遊びを取り入れ、一人一人が挑戦したいことに楽しんで取り組めるような環境を工夫した。

運動会当日は、できることを重視するのではなく、保護者の方に見てもらうことを楽しみに、わくわくしながら挑戦する園児の姿がどのクラスでも見られ、満足感や自信につながっていった。

保護者からも、「やりたいことに自信をもって楽しんで取り組んだわが子の様子が見られ成長を感じた」という声が多く聞かれた。

たくさんの人に認められ、その思いに共感してもらえたことで、運動会後も、一人一人が生活や遊びの中でいろいろなことに興味をもち、自らやってみようとする姿が見られている。

【注目したい保護者の声】

「子どもたちの頑張りがたくさん伝わってきた。自信をもって笑顔で取り組む姿が印象的だった」

取組事例

②小学生との稲刈り

5歳児

地域の方に教えてもらいながら



自分で鎌を持って



小学生と一緒に



本園は、学区の小学校や地域の方との交流の一つとして、毎年田植えと稲刈りを行っている。

春に田植えを行ってから、散歩で時々稲の生長の様子を見に行っていた5歳児は、この日、小学生と一緒に稲刈りに参加した。

自分で鎌を持ち、一束ずつ稲を刈っていく園児。「どうやるの?」「できたー!」「次はここがいい」など、意欲的な姿が見られた。本物の鎌を扱うことにドキドキしながらも真剣な表情が見られ、地域の方に教えてもらいながら、集中して取り組んでいた。

また、小学生が刈る様子を見てまねをする姿や、「こうやるんだよ」と小学生が声を掛けてくれる場面も見られ、一緒に活動に参加する楽しさを味わうことができた。

自分で稲を刈るという特別な経験をしたことで、とても満足そうな表情が見られ、また、小学生や地域の方など、様々な人と触れ合いながら稲刈りをしたことで、親しみの気持ちをもつとともに、協力して物事に取り組む大切さや収穫の喜びなども経験することができた。

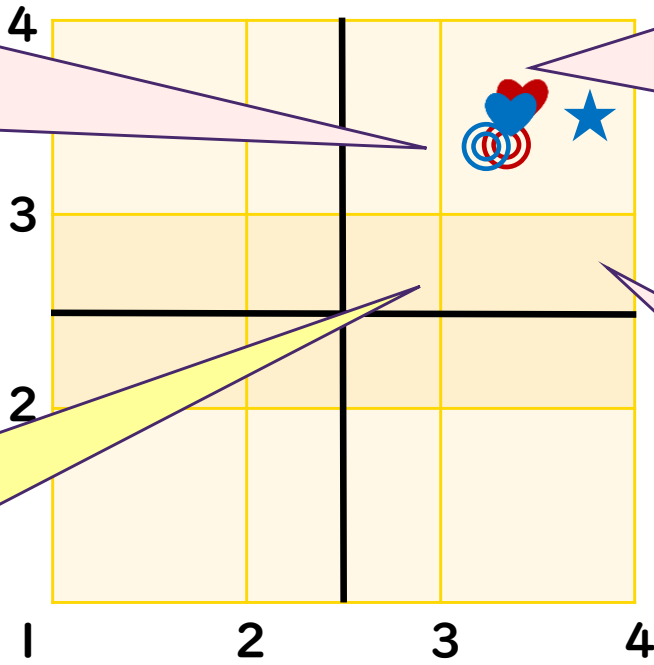
保護者にも活動の様子を写真で配信し、学区の小学校との交流について伝えていった。

【注目したい保護者の声】

「小学生や地域の方との交流を通して、『人と関わる力』をつけることができたと思う」

人とか関わる力

そう思う



♥子どもたち同士で助け合い成長していく姿が見えるので、保護者はそれを見守る姿勢が大事だと感じました。

♥行事や毎日の生活の中で遊びの工夫してもらっていると感じていて、とてもよい環境だと思う。

◎自己選択や自己決定ができる環境を工夫していくことで、園児が意欲的に活動している。

環境

♥恥ずかしがり屋ですが、園生活を通して、人との関わりが増え、よい経験になっていると感じます。

♥…保護者

◎…園

★…地域

継続して実施することが困難であるため地域アンケートを実施していない

変化から見えてきたこと

保護者は園の保育活動や行事の中での「環境」や「人との関わり」についての取組に対して日頃より理解を示してくれているのが分かった。

園児の様子をドキュメンテーションを通して丁寧に伝えていくことで、保護者は子どもが自信をもって取り組んだり挑戦したりする姿を知ることができ、保育活動に対しての理解や協力につながっていくのだと改めて感じた。

職員間でも、保育活動のねらいや育てたい姿を共有したり、すり合わせたりすることで、同じ思いをもって園児に関わることができている。

引き続き、園児が安心して活動に取り組める環境を工夫しながら、主体性を育んでいけるよう、次年度は「環境」「主体性」をキーワードにして保育活動を進めていきたい。

【育てたい10の姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

次年度のキーワードは

環境、主体性

幼保連携型認定こども園 テーマ

「小学校接続に向けた非認知能力を育てる」



テーマに迫るためのキーワード

頑張る子

思いやりと優しさのある子

積極的

よくかんがえる子

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
3歳児	26人	25人	32人
4歳児	32人	24人	23人
5歳児	20人	32人	24人

- 地域の様子・特徴について
 - ・本市は千葉県に隣接しており、隣に中学校、近くに小学校がある。歩いていける距離に公園が何箇所もある。
 - ・地域の小学校、保育園、認定こども園で幼保小の連携を進めている。
- 保護者の思い
 - ・友達とたくさん関わってほしい。
 - ・社会性を養ってほしい。
- 保育者（指導者）の思い
 - ・園時同士がぶつかりあいながら成長してほしい。
 - ・友達の頑張る姿を見て自分も頑張ってほしい。

アンケート作成のためのキーワード

頑張る、思いやり

アンケートの基本項目

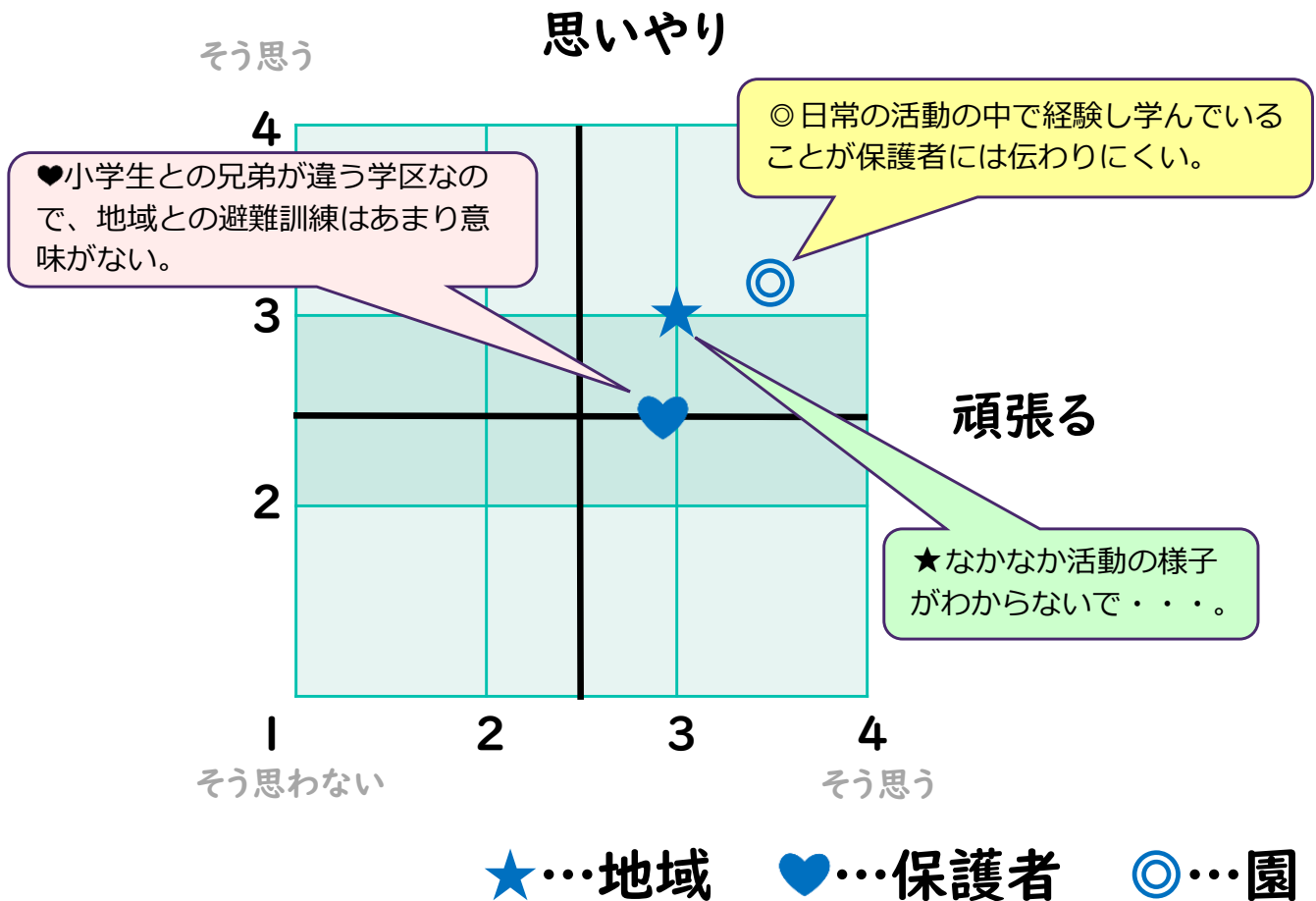
頑張る

- 本園は頑張ろうとする姿が見られている。
- 本園は園児がやってみたいと思える活動を取り入れている。
- 本園は園児一人一人がのびのびと活動できる環境である。

思いやり

- 5月に実施した幼小合同避難訓練は有意義であった。
- 本園は活動の中で社会性を学べる機会がある。
- 本園は園児同士が助け合う姿が見られる。

7月のアンケートより



アンケートからの捉え



- 地域との関わりを今後どの様に活かしていったらよいのか。
 - ・避難訓練では引き取りまでの間に園児を待たせてしまっていたので、次回に向け連携をとっていきたい。
- 保護者の理解、協力を得るにはどのような方法が伝わりやすいか。
 - ・様々な活動で学区外の小学校へ行く子がクラスの半数程いる中、他地区の小学校は引き継ぎだけでよいのか伝える手立てを考えたい。
- 保育者は日々の保育、行事の中でどう非認知脳力を育てていくか。
 - ・日常の中に学ぶ機会が多々あるが、それをどう保護者や地域に伝えるのが課題である。
 - ・幼保連携型認定こども園では様々な家庭環境の子ども、保護者がいる中で同じ理解、協力を得ることが非常に難しい。

取組事例

5歳児

① お泊り保育



例年、夏に5歳児が自園の保育室に布団を敷き、お泊り保育を行っている。お泊り保育の話をはじめた当初は「参加したくない」と泣いていた園児もいた。普段から祖父母宅に泊りに行っている子、両親と離れて泊まったことがない子など様々であった。そのため、どんなことをするのかを話し合い、園児が楽しみになるような声掛けをしながら、保護者にも協力を得てきた。当日は縁日ごっこやみんなで盆踊りをし、キャンプファイヤーでは花火を楽しんだ。初めは参加を拒んだ園児も、友達と協力して布団を敷くなど、当日は笑顔で参加できた。両親から離れての1泊を経験したことで大きな自信につながり、みんなと一緒に過ごした体験で友達と助け合う姿が見られた。

5歳児

② 運動会



本園は、週に1度体操の講師が指導している。今年度の運動会では3歳児はイス体操、4歳児はパラバルーン、5歳児は組立体操を披露した。5歳児、組立体操では1人組の技から、2人組、3人組、6人組、全員での技を無事に完成させることができた。初めは完成できなかったものも練習を重ねて力を合わせて協力し、みんなで作り上げる体験を通して達成感を得た。また、5歳児はサーキット（縄跳び、台上前転、鉄棒）を披露し、競争ではなく一つ一つを丁寧に発表することを目指に取り組んだ。早ければよいではなく、最後まできちんと演技することの大切さを理解し、運動会後も鉄棒や縄跳びを積極的に取り組む園児が増えた。

③ 小学校接続に向けて



運動会が終わった後、近隣の小学校へ行き、校庭で直線50m走を行った。市の幼保小接続会議の時に、1年生の先生に「園庭では直線で50mを走ることができないので、校庭を走らせてほしい」とお願いをしたところ、「6年生の体育の時間に一緒にやりましょう」と話が進み、一緒に準備体操、50m走、リレー、鬼ごっこを行った。

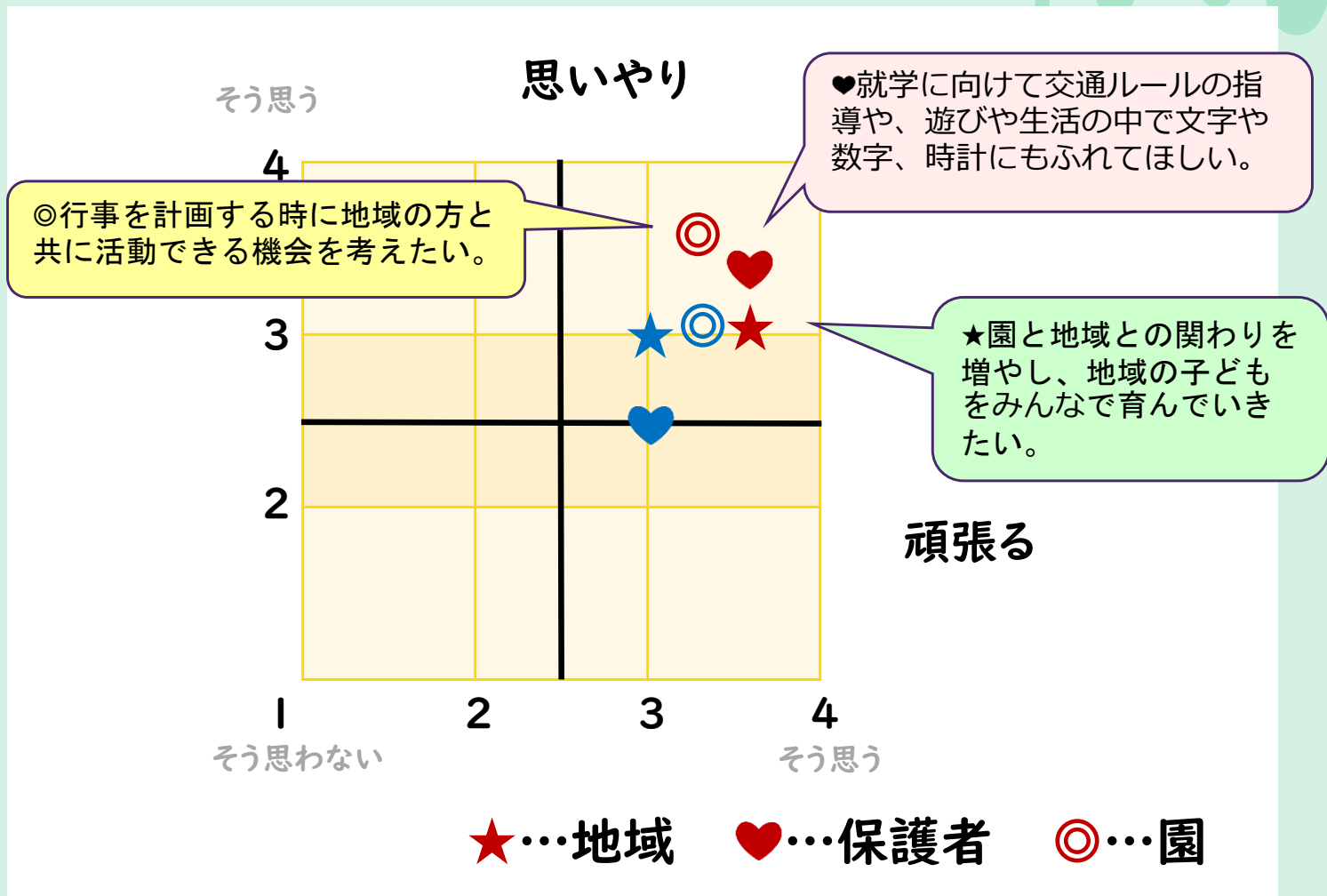
50mの距離に初めは驚いていたが実際、走ってみると思っていたよりも速く走ることができていた。最後に6年生と一緒に行った鬼ごっこがとても楽しかったようで、園への帰り道に「つかまらなかった」と嬉しそうに会話している様子が伺えた。1年生だけでなく、6年生との関わりをもてたことも良い経験となった。

0～5歳児

④ 幼小中地域合同避難訓練



幼稚園、小学校、中学校、地域の日本語学校が合同避難訓練を行った。昨年度より小・中学校が合同で実施していたので、幼保小連絡会議の際に相談し、中学校の校長先生と話合いの時間をもった。「実際の地震の際に保護者がどのように園児を迎えに来るのか、学校が先なのか？園児が先なのか？」というところから話し合い、幼小中地域合同避難訓練を初めて実施した。隣接する中学生と、地域の日本語学校の生徒が幼稚園に来て園児と手をつなぎ、小学校へ避難をした。園児は初めての体験であったが、中学生に声をかけてもらいながら、落ち着いて避難をする様子が見られた。今回は初めての合同訓練であった為、計画は全て小中学校の先生方だった。訓練後に全ての代表で反省会の時間もち、来年度への課題や修正点を確認することができた。自然災害時に地域とどう繋がっていくのか、園としても考えていく必要があると改めて感じた。



変化から見えてきたこと

7月のアンケート時に比べ保護者にも園での活動を見てもらう機会が増えた分、園での取組に対し良い評価が得られている。園児も協力することの大切さ、楽しさを感じてきているように見える。小学校の協力を得、接続に向けた取組ができたことも活動に広がりが出てきた。50m走、避難訓練は今年度初めての活動であった為、今後やり方など検討しつつ来年度以降も続けていきたい。また、保護者から就学に向け交通ルールの指導や遊びや生活の中で文字、数字、時計などに触れてほしいとの声が上がった。今後、交通ルールを伝える機会を増やし、実際の道路へ出る機会を増やししながら、園でも交通ルールを意識させていきたい。また、遊びの中で文字や数字を意識させていきたい。

【育てたい10の姿】

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現	

次年度のキーワードは

頑張る、協力

公立保育所 テーマ

「信頼を育て、つながりを深める 保小連携」



テーマに迫るためのキーワード

保護者からの信頼

保小連携

異年齢保育

自然と触れ合う

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
1歳児	4人	4人	1人
2歳児	5人	4人	4人
3歳児	8人	5人	4人
4歳児	6人	8人	6人
5歳児	13人	7人	10人

- 地域の様子・特徴について
 - ・散歩コースに緩やかな高低差のある地形があり、園児の足腰の発達や体力づくりにもつながっている。
 - ・本園は、園児が進学する小学校の校舎内に保育室があり、保小連携がしやすい環境である。
- 保護者の思い
 - ・様々な子と関わり、たくさん遊んでほしい。
 - ・けがなく、安全に過ごしてほしい。
- 保育者の思い
 - ・園児一人一人の個性を尊重し、心身ともに豊かな子を育てたい。
 - ・保護者との信頼関係を築き、園児の様子や発達を共有していきたい。

アンケート作成のためのキーワード

信頼、環境

アンケートの基本項目

信頼

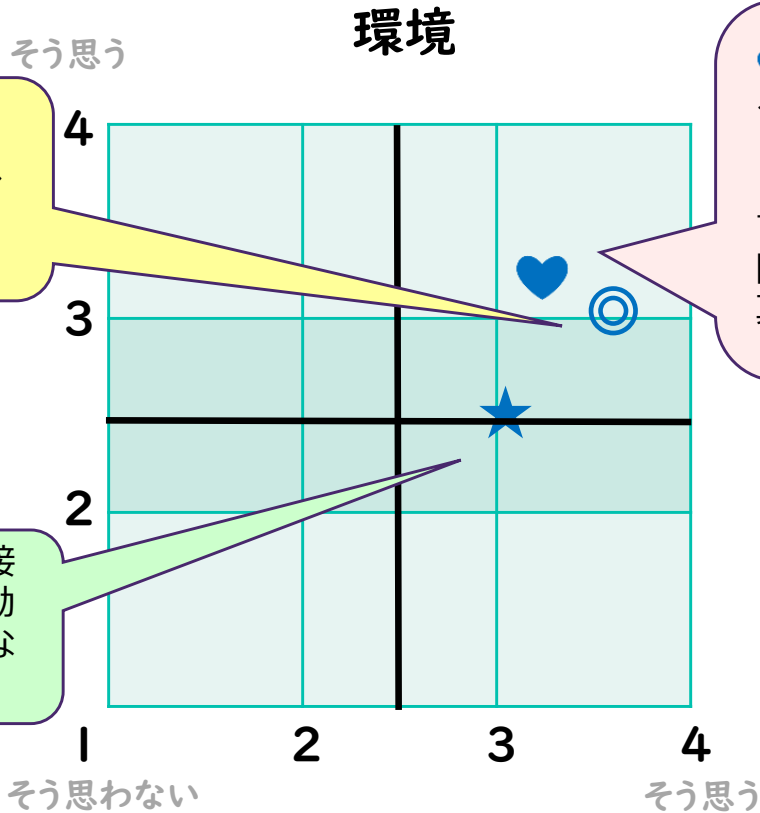
- 本園は、園児の個性を大切にしている。
- 本園は、園児の様子を保護者に伝えている。
- 本園は、園児の声や思いを受け止めている。

環境

- 本園は、自然と触れ合う活動を行っている。
- 本園の異年齢保育は、園児によい影響を与えている。
- 本園は、小学校と連携を図っている。

7月のアンケートよ

り



◎少人数ならではの異年齢保育を展開してはどうか。

★小学校と隣接しているが活動内容は分からない。

♥人数が少なく、やれることが限られるかもしれないが、できる限りいろいろな体験をしてほしい。
園での生活の様子を写真で掲載してほしい。

信頼

★…地域 ♥…保護者 ◎…園

アンケートからの捉え



- 地域
 - ・本園の取組やそのねらいなどが伝わっていないのではないか。
 - ・近隣施設で無理なく交流する機会を設けてはどうか。
 - ・小学校の校舎内に保育室があるので、小学生と交流できる時間を計画してみてもどうか。
- 保護者
 - ・園児の多様な経験を期待している。
 - ・少人数制を活かし、異年齢交流の展開でできる保育を計画してみてもどうか。
 - ・取組内容をマチコミメールなどで伝えていくのはどうか。
- 保育者
 - ・保育目標やねらいを意識して保育を計画すべきではないか。
 - ・戸外に積極的に出て、体を思い切り動かす遊びを取り入れてはどうか。

取組事例

5歳児

① 1年生とゲーム遊び

じゃんけん列車



猛獣狩り



本園は、小学校の校舎内に保育室があり、互いの情報を共有している。保護者からの声にも「小学校と園が同じ校舎なので校庭を共有することができていて、入学時の不安などが軽減される」とあった。これまでは行事などで互いの様子を見学することはあったが、園児同士の交流はしていなかった。そこで、5歳児と1年生がゲームを通して交流する遊びの企画を実践した。

「じゃんけん列車」と「猛獣狩り」2つのゲームを行ったがゲーム中に自然に言葉を交わしたり、ルールを教え合ったりと、協力し合う姿が見られた。

② 保護者への伝え方

園児の一日の様子を、送迎時に直接保護者に口頭で伝えたり、行事の様子をマチコミメールで配信したりしている。しかし、「保育者と積極的にコミュニケーションをとらないと園での様子が分からない」「もっと子どもの生活の様子を教えてほしい」などの声があった。そこで、行事や日頃の様子を写真に収め、玄関入口に掲示することにした。

掲示をしたことで、園児の園での姿を保護者に伝えることができ、保育への理解や関心を深めるきっかけとなった。「〇〇したんだよ」「〇〇が楽しかった」などと親子で会話を楽しむ姿や、保護者同士で園児の活動について話をする様子が見られるようになった。

玄関入口の掲示板



取組事例

1～5歳児

③ 戸外遊び

戸外遊びの様子



持久走大会応援の様子



本園は、小学校の校舎内に保育室があるため、戸外遊び時は小学校の広場や中庭、校庭を共有している。

園児は戸外に出ると、年齢に関係なく関わりながら、思い思いに遊んでいる。異年齢での関わりを通して、年上の子は相手を思いやる気持ちを、年下の子は安心して挑戦する姿が育まれている。

また、持久走大会の応援に参加するなど、小学校と行事を共有することで、園児が小学校の活動に触れる機会を設けている。応援を通して、小学校の雰囲気を感じたり、児童の姿に憧れをもったりする経験が就学への安心感や期待感を育み、保小連携の充実につながっている。

④ 保育者の振り返り

本園では、週に1回程度職員会議を行い、日々の保育や行事について振り返りと話し合いを重ねている。

行事については保育者主導ではなく、園児の「やってみたい」という思いを大切にし、実践へとつなげている。

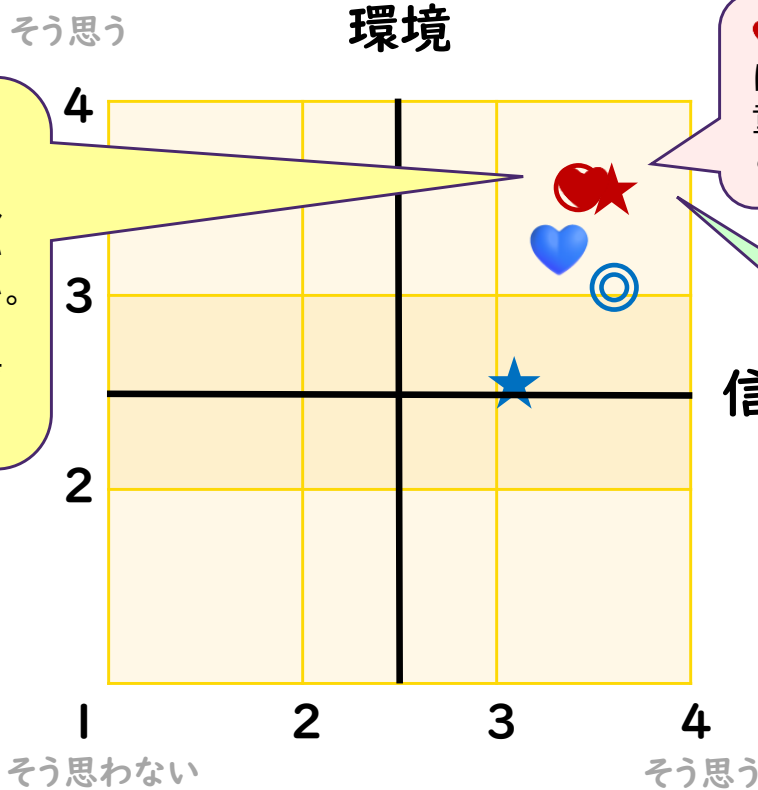
話し合いの中で、「地域の方との関わりをもちたい」という声が上がった。話し合いを重ねた結果、高齢者施設を訪問し交流することも一つの方法ではないかという意見が出てきた。

そこで、5歳児を中心に、高齢者の方と関わるという企画を進めることで、地域とのつながりを深めながら、思いやりの気持ちや社会性を育んでいきたいと考えた。



職員会議での話し合いの様子





◎小学校と行事を一緒に行うことで更に開かれた園になっていくのではないかと。◎今後、近隣高齢者施設への訪問も行いたい。

♥小学校の行事と一緒に参加をするなど、児童との関わりがあることはいいことだ。

★中庭で給食を食べたり、水遊びをしたりと、園児がのびのびと活動していることを知った。

★…地域 ♥…保護者 ◎…園

変化から見えてきたこと

小学校の協力を得て、5歳児と1年生との交流活動としてゲーム遊びを行ったところ、互いに協力し合い、思いやりや信頼の気持ちが育まれていく様子がうかがえた。

また、園の玄関入口に園児の様子を撮った写真を掲示したことで、家庭での親子の会話を増やすきっかけとなり、親子関係を深めたり、園と保護者との信頼関係を育んだりすることができた。

しかし、年々入所人数が減ってきており、これまでと同じような保育ができなくなってきている。そこで、異年齢保育を取り入れるとともに、少人数のよさを最大限に活かしながら、園児に必要な経験ができる保育環境づくりを目指す。

【育てたい10の姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

次年度のキーワードは

信頼、異年齢保育

私立保育園 テーマ

「未来を切り拓いていく力を育む」



テーマに迫るためのキーワード

生きる力・感謝の心

健やかな心と体

平和と社会に貢献

個性を認め合う

本園について

学級	2023年	2024年	2025年
0歳児	8人	7人	7人
1歳児	30人	27人	28人
2歳児	52人	50人	45人
3歳児	58人	61人	61人
4歳児	53人	57人	60人
5歳児	57人	52人	54人

- 地域の様子・特徴について
 - ・季節の草花や虫等の自然と触れ合える緑豊かな環境である。
 - ・市内近隣小学校と互いに保育・授業参観を実施したり、「なかよしかい」を企画し園児と児童の触れ合う機会を設けたりして、連携を深めている。
- 保護者の思い（運営に関する保護者アンケートを毎年実施）
 - ・安心安全な環境で、子どもたちの成長を温かく見守ってほしい。
 - ・いろいろな体験を通し、心豊かに育ててほしい。
- 保育者（指導者）の思い
 - ・園児や保護者の思いに寄り添いながら、園児一人一人の成長や発達を促す言葉掛けや関わりを大切にしていきたい。
 - ・集団生活の中で、コミュニケーション力、思考力、創造力、判断力、協調性、社会性、主体性など未来を切り拓いていくための資質・能力を育みたい。

アンケート作成のためのキーワード

社会貢献、個性を活かす

アンケートの基本項目

社会貢献

- 本園はキャリア教育やSDGsに取り組んでいる。
- 幼児期からのキャリア教育やSDGsへの取組は必要である。
- 当番活動等の他者のために積極的に行動する経験や異年齢児との関わりから育まれる思いやり等は、未来の社会貢献につながる。

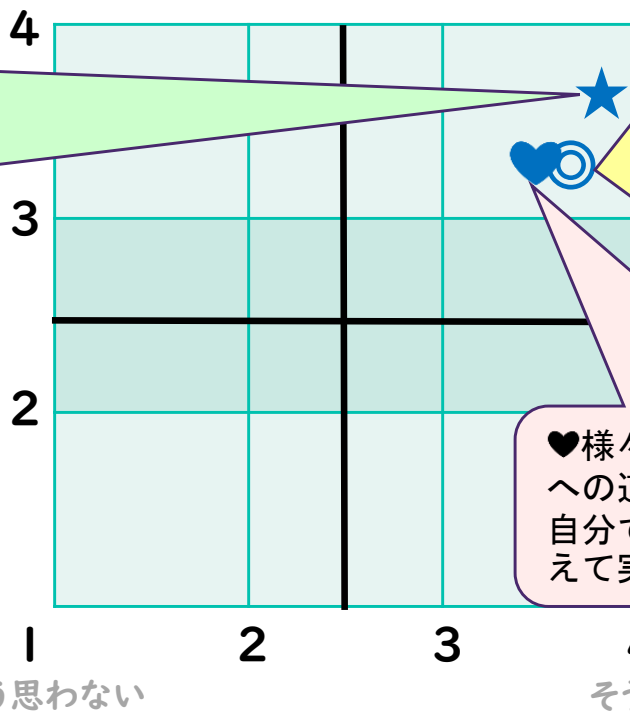
個性を活かす

- 本園は保育理念に基づき、園児一人一人の個性を認め、個々のよさを生かしている。
- 本園は、「さがしてごらん ときめきの種」をスローガンに、様々な遊び（STEAMデー、わくわくデー等）を通して、自分の好きなこと、得意なこと、興味関心があること等を見つけ、成長と共に個性を伸ばしている。
- 本園の遊びを通じた体験は、小学校での学びに活かされている。

7月のアンケートより

個性を活かす

そう思う



★様々な体験をして、たくさんの方に興味をもち、自分の可能性を広げてほしい。

◎将来に期待をもち、なんでも意欲的に取り組む力を伸ばしたい。

【なりたい職業BEST 5】

1. 飲食業
2. 消防士
3. 警察官
4. アイドル
5. スポーツ選手

5歳児に聞きました

社会貢献

♡様々な選択肢があること、ゴールへの道筋は複数あること、その道は自分で決めることができ、自分で考えて実行する力を身に付けてほしい。

そう思わない

そう思う

★…地域

♡…保護者

◎…園

アンケートからの捉え



- 地域に本園の取組やそのねらいなどが少しずつ認知されてきている。
 - ・引き続き、園だより・ホームページ・SNS等を通し、本園の取組を発信していく。
 - ・地域の方をキャリア教育デーのゲストティーチャーに招き、交流する機会を設定してはどうか。
- 保護者は子どもたちがいろいろなことに挑戦し、様々な資質・能力を育むことを期待している。
 - ・子どもたちの様子をしっかりと観察し、興味関心をもち、楽しみながら意欲的にチャレンジできる保育を計画してはどうか。
- 保育者は園児が安心して挑戦できる環境作りを意識する。
 - ・園児の興味関心に目を向け、集団生活で育てたい「未来を切り拓く資質・能力」を意識して保育を行いながら、遊びを通じた他者との関わりによって良好な人間関係を築く基礎を経験できるようにする。
 - ・園児に「大きくなったら何になりたい?」と聞くと、ケーキ屋さん・アイス屋さん・ピザ屋さんなどの飲食業がランキング1位であった。自分が実際に目にした身近な職業を挙げる傾向があると感じる。だからこそ、様々な職業について知ることが、園児自身のキャリア形成の方向性を見いだすきっかけとなるのではないかな。

取組事例

5歳児

① キャリア教育デー 6/16



園児の将来の選択肢を広げ進路を自分で選択できるように、職業や社会についての理解を深めることや、自分を理解していくこと等を目的に、キャリア教育デーを開催した。保護者にゲストティーチャーとして協力していただき、自身の職業について園児に紹介してもらった。

パソコンで外国の方と英語でやり取りする場面を見学したことで、「外国の人と話せてすごい」と世界に目を向けるきっかけになった。また防災ヘリに勤務する方からは、命を守る仕事のやりがいや様々な特殊装備品を紹介してもらい、「かっこいい」「怪我した人を救うために、いろんな道具があるんだね」と職業について知る機会になった。

5歳児

② キャリア教育デー 8/25



教員、作業療法士、システムエンジニア、エステセラピストの保護者の方をゲストティーチャーに招き、2回目のキャリア教育デーを行った。

今回は園児が各職業についてより興味関心がもてるように、4グループに分かれて各職業ブースを巡りミニワークショップを体験できるやり方に変えた。

各ブースで自ら体験することで、「楽しい」「おもしろい」「すごい」と園児なりに各職業について興味関心を示していた。

協力してくれた保護者の方からも、「子どもたちの反応を直接見ることができてよかった」「仕事について知ってもらった貴重な時間となった」と好評であった。

取組事例

③ SDGsデー

3～5歳児

ゴール2 飢餓をゼロに



園児が持続可能な社会について主体的に考えるきっかけにつなげようとSDGsに取り組んだ。節水・節電、ごみ削減・リサイクル、自然を大切にすること、食に対する感謝の気持ちを育む等毎回テーマを決め、園児と共に問題を解決するために何が出来るかを考えている。

ゴール14 海の豊かさを守ろう



今年度はゴール2「飢餓をゼロに」、ゴール14「海の豊かさを守ろう」をテーマに、絵本や動画で環境問題への理解を深め、リサイクル分別を実際に体験したり、クイズを楽しみながら自分たちが出来ることは何かを話し合ったりして、SDGsへの意識を高めた。

また、全年齢の家庭と協力して牛乳パックや古タオル等の回収を行い、園児自身がリサイクル活動を身近に経験できるようにした。

0歳児：
絵具で感触遊び



1歳児：石・砂・土
のマラカスを作ろう



2歳児：
虫を探そう



3歳児：音の振動を
見てみよう



④ STEAMデー・わくわくデー

0～5歳児

園児自身がワクワクしながら仲間と一緒に考え、主体的に調べて問題や課題に気付けるよう、STEAM教育の要素を遊びに取り入れ、「探求心」や「創造力」を伸ばしている。取り組む内容について、事前に保育者間でねらいや目的等を話し合い、遊びの中で園児の「なんで?」「どうして?」をたくさん引き出そうと工夫している。園児は探求していく過程で、自ら考え、試し、発見する楽しさを味わうことが出来た。また、園児が興味関心を示していることをテーマに取り上げ、じっくり遊び込む「わくわくデー」を設けている。

4、5歳児はやりたいことや挑戦したいことについて話し合う「こども会議」を定期的に行い、自分の意見を発表したり、他児の意見に耳を傾けること等を経験したり、多様な価値観を認め合う機会となっている。

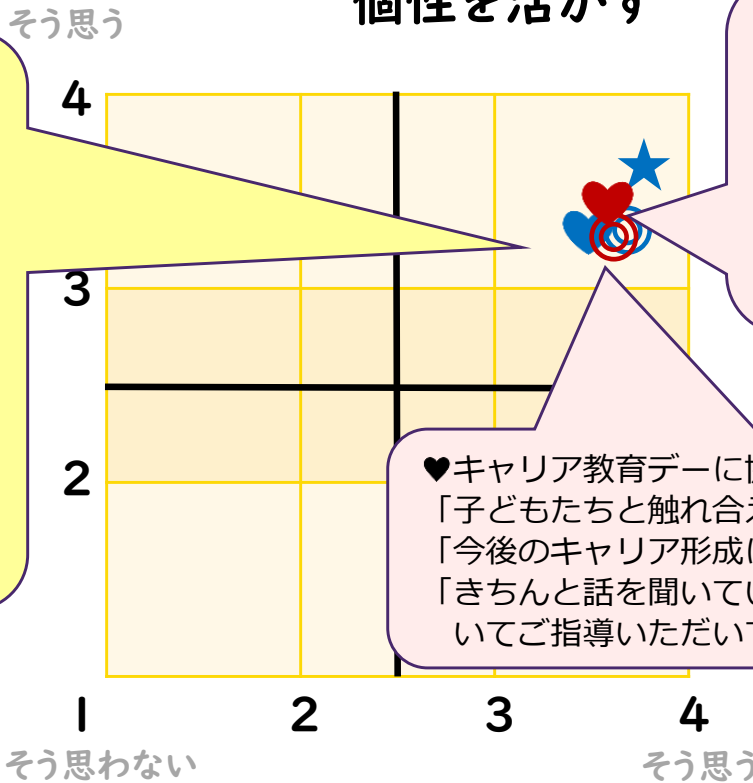
4歳児：ビー玉を転がそう！ダイラタンシー実験



5歳児：ドミノ倒しに挑戦！！
びっくりボトルを作ろう



個性を活かす



◎ SDGs 活動
(給食を残さず食べてフードロス、リサイクル等)を通して日常的に出来る社会貢献を実践しながら、他者への感謝の気持ちや社会の一員としての自覚や自己肯定感を育んでいきたい。

♥前回のアンケート結果からさらに高評価となった。引き続き園の様々な取組について保護者に配信し、家庭を巻き込みながら園児の未来を切り拓いていく力を育んでいく。

社会貢献

♥キャリア教育デーに協力いただいた方の感想
「子どもたちと触れ合える貴重な機会となりました」
「今後のキャリア形成に少しでも役立てたなら嬉しい」
「きちんと話を聞いていて、日頃から話を聞く態度についてご指導いただいていることが伝わってきた」

♥…保護者 ◎…園 ★…地域

継続して実施することが困難であるため地域アンケートを実施していない

変化から見えてきたこと

「社会貢献」は保護者・職員ともに評価が上昇した。SDGsやキャリア教育デーなどの取組が家庭にも伝わり、園児の思いやりのある行動が家庭にも良い影響を与えているためと考えられる。同法人内の学童保育においても保護者を巻き込み、キャリア教育デーを開催する予定である。

SDGs活動に取り組みながら、園児と共に世界の課題を自分事と捉え、問題解決や環境保護について考え、より良い世界を作るための社会貢献意欲を高めていきたい。

また、引き続き、遊びを通して、園児がドキドキワクワクする「ときめきの種」をたくさん振りまき、集団の中で対話やコミュニケーションを大切にしながら未来を切り拓いていく力を育むことを目指す。

今後の課題としては、園児一人一人の個性を活かしながら、集団生活の中で協力し合う力をつけていく保育を大切にしたい。

【育てたい10の姿】

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

次年度のキーワードは

対話、協同性

小学校 テーマ

「他者との関わりを通して、
自ら考え判断し、行動する」



テーマに迫るためのキーワード

他者との関わり

自ら考え判断し、行動する

一人一人が輝く

心豊かな児童

本校について

学級	2023年	2024年	2025年
1学年	82人	98人	87人
2学年	86人	80人	98人
3学年	110人	86人	80人
4学年	98人	102人	88人
5学年	81人	100人	103人
6学年	88人	79人	100人

- 地域の様子・特徴について
 - ・本校の学区は、新興住宅地が大半を占め、核家族の割合が高い。毎年新入生の数は市内でも上位を占めている。
 - ・中学校区のコミュニティ協議会の人々と連携し、様々な活動を行っている。
 - ・市立の幼稚園・保育園や保育所・中学校が近く、幼保小中連携を深めている。
- 保護者の思い
 - ・友達と様々な体験を重ねる中で、相手の立場に立って行動することができるようになってほしい。
 - ・友達と関わる中で、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながらきまりをつくったり、守ったりすることができてほしい。
- 指導者の思い
 - ・多様な他者との関わりを通して、自ら考え判断し、行動できる児童を育成したい。
 - ・保護者や地域の人々と協力することで、開かれた学校づくりを目指したい。

アンケート作成のためのキーワード

他者との関わり・自ら考え判断し、行動する

アンケートの基本項目

他者との関わり

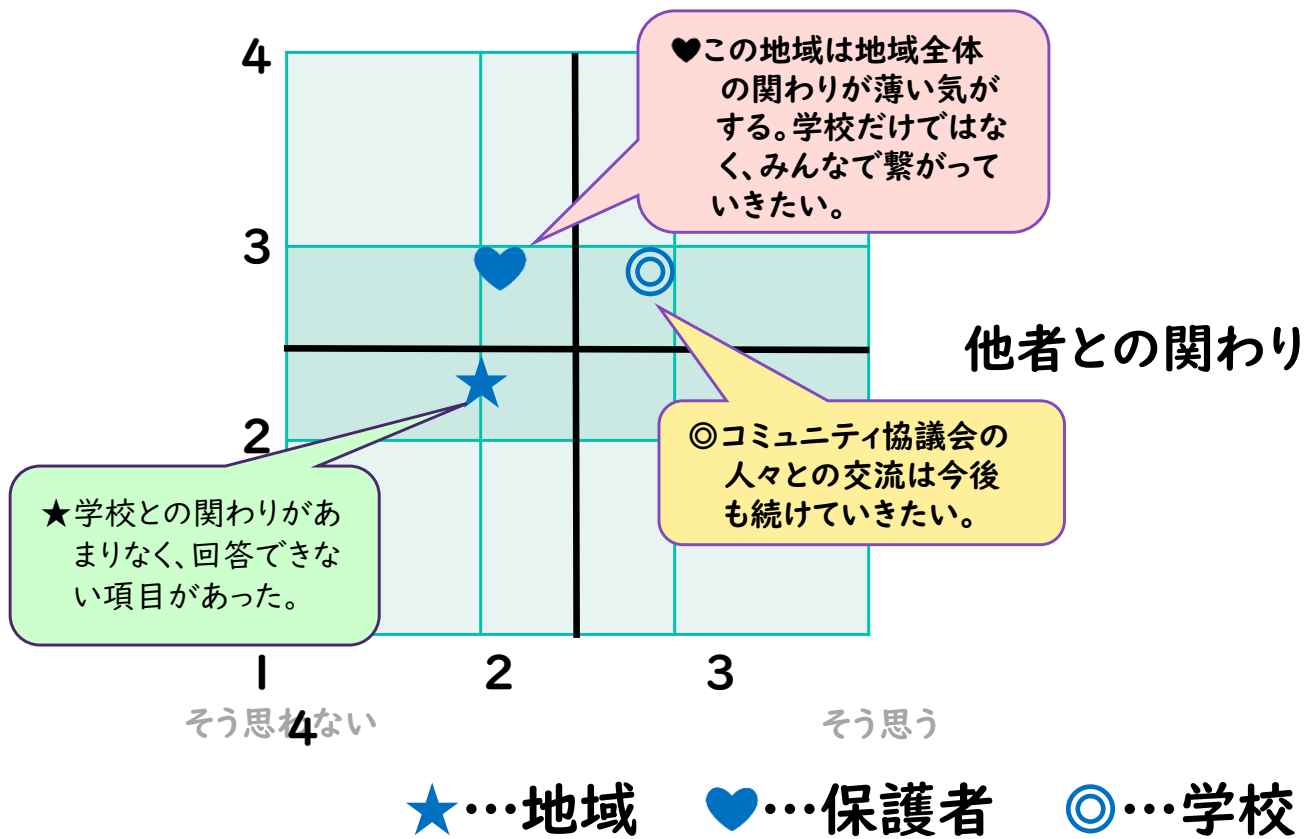
- 学校は保護者や地域との関わりによる活動を行っている。
- 本校の児童は他の児童の保護者や地域と関わりをもっている。
- 本校は、学校と保護者、地域との相互理解が深められている。

自ら考え判断し、行動する

- 本校の児童は自ら考え判断し、行動している。
- 学校は児童が自ら考え判断し、行動するような教育活動を行っている。
- 本校の教育は幼児教育施設での経験が生かされている。

7月のアンケートより

そう思う 自ら考え判断し、行動する



アンケートからの捉え



- 地域に本校の取組やねらい等が伝わっていないのではないか。
 - ・地域と交流する機会を設定し、授業を公開したり、参加してもらったりする機会を増やしてはどうか。
 - ・学校だよりやホームページの存在をもっと積極的にアピールしたらどうか。
- 保護者は、子供が友達と様々な体験を重ねる中で、きまりを守ったり、相手の立場に立って行動したりすることができることを期待している。
 - ・自分たちで活動を計画することで、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりすることができるようになるのではないか。
 - ・園児と交流することで、相手意識が明確になり、自分より年齢が下である園児の立場を考えて行動することができるようになるのではないか。
- 学校は授業を行う際、児童が自ら考え判断し、行動することができるような活動を見直し、改善するべきではないか。
 - ・児童が中心となって計画し、実施する活動を取り入れたらどうか。
 - ・一回きりの活動ではなく、複数回重ねることで、自分たちで工夫・改善した活動がもっとできるようになるのではないか。

取組事例

1年生

① 生活科「みんなでつうがくろをあるこう」

生活科の「みんなでつうがくろをあるこう」の学習では、通学路の様子や安全を守っている施設や人々の存在に気付くことをねらいとしている。

本校では地域のコミュニティ協議会（以下コミ協）の方々が見守りボランティアとして毎日の登下校を見守ってくれている。そこで、校外学習として保護者やコミ協の方々にお手伝いいただき、道路の歩き方や、横断歩道の歩き方を体験した。途中、見守りについての話を聞いたり、質問したりする時間もつくった。

活動後にはお礼の手紙を書いて渡した。そこには「これからはまわりをよくみてあるきます」「あんぜんにいちれつにならんであるきます」等今後どう行動するかの記述が見られた。手紙を渡すときにも一言ずつ自分でお礼の言葉を考えることができた。



1年生

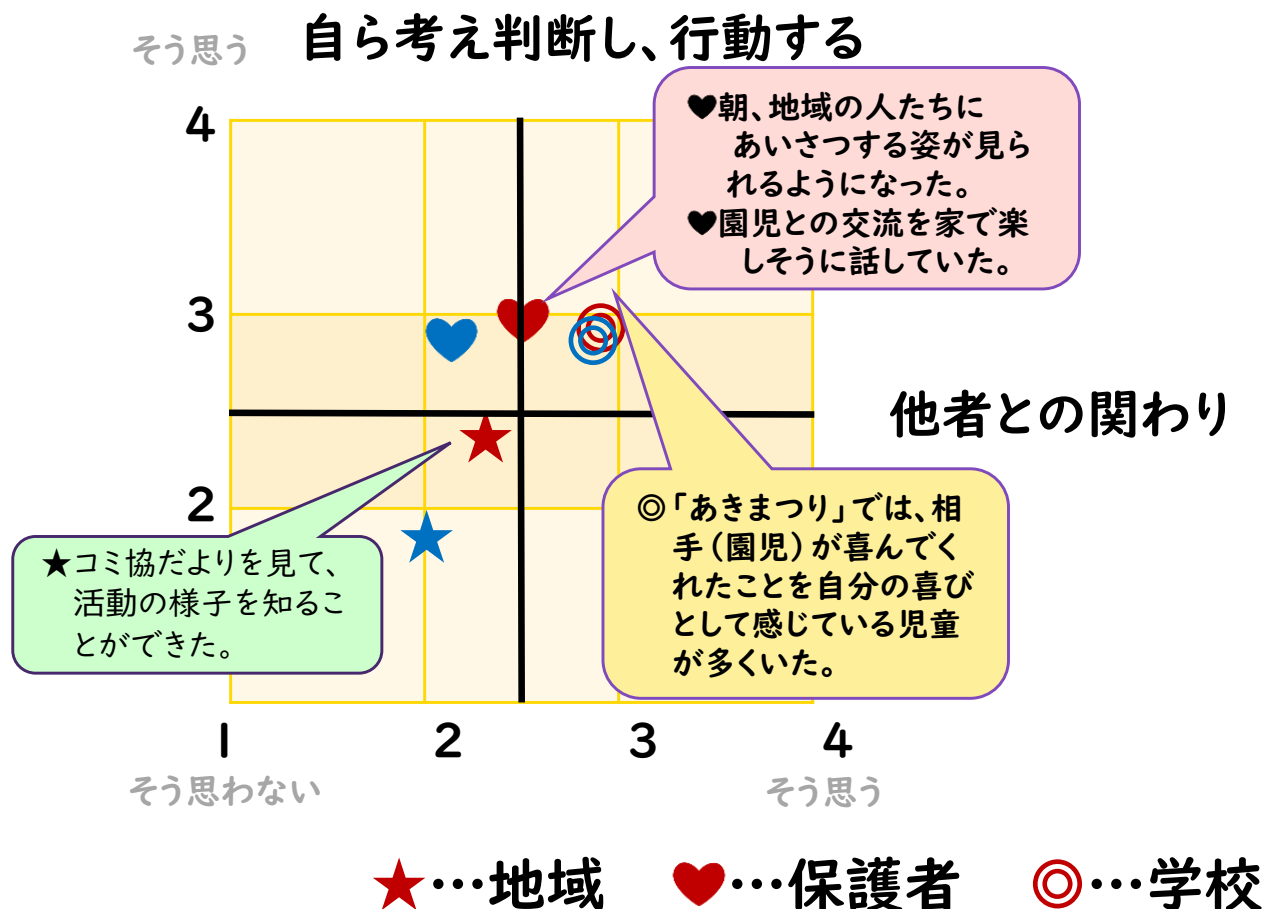
② 生活科「いっしょにあそぼう」

生活科の「いっしょにあそぼう」の学習では、園児の気持ちを想像しながらおもちゃを作り、一緒に遊ぶ中で、みんなと楽しく遊ぶことができるようになったことに気付くことをねらいとしている。

本校は市立の幼稚園と保育所が近く、園児を招いて「あきまつり」を2回行った。児童はグループに分かれ、秋のものを使って遊ぶ物を作ったり、遊びのルールを自分たちで決めたりして準備をした。

2回目は1回目のことを生かして児童が中心となって準備をした。児童は、招待状の文章を自分たちで考えたり、遊び方の説明をより分かりやすくするために絵を加えたりと、園児に楽しんでもらうために試行錯誤していた。活動後には、「じぶんがつくったあそびでえんじさんがニコニコであそんでくれてよかった」といった感想が多く見られた。





変化から見えてきたこと

地域（コミ協）の協力を得て生活科で校外学習を行ったところ、活動後の振り返りで、今後の道路の歩き方等について「周りをよく見て歩く」「安全に一列で歩く」など、児童が自分で考えて行動しようという記述が見られた。また、コミ協の人たちにあいさつをする児童が増えたことで、「児童が自ら考え判断し、行動する」ことについて地域の肯定的回答が得られ、変容が見られた。また、活動の様子をコミ協だよりを通して紹介したことで、保護者にも「他者との関わり」による活動を伝えることができ、変容が見られた。

園児との交流学習では、活動の様子をホームページに掲載し、楽しく活動する様子を写真で伝えることができた。また、児童が保護者に感想を伝えたことで「他者との関わり」についての変容も見られた。

一方で、児童が自分たちで計画を立てて実施したことや、活動後に相手の喜びを自分の喜びとして感じていたことは「児童が自ら考え判断し、行動する」ことや「他者との関わり」に該当すると考えられるが、保護者や地域に広く伝えるところまでは至らず、変容があまり見られなかった。

今後はそのような活動のときに保護者や地域の人参加できるようにするなど、さらに地域との連携を深める教育活動の工夫や広報活動の充実を図り、開かれた学校づくりを進めていきたい。

Ⅲ 令和7年度茨城県幼児教育研究推進校の取組

筑西市立認定こども園せきじょうの実践研究



「うんどうかい」

筑西市立認定こども園せきじょう 5歳児

研究主題

遊びの連続性を深める環境の構成の在り方

～保育エンゲージメントの向上とともに～

1 主題設定の理由

園児にとって「遊び」は学びそのものである。だからこそ単発ではなく、連続的に深まっていく遊びや経験を重ね、低年齢児の遊びや活動を5歳児の発展的な遊びや活動へとつなげていく。つまり、過去の経験から新たな知識、スキルを獲得してくための環境の構成を整えていくことで、園児の心身の発達、学習意欲、社会性の発達といった生涯にわたる成長の土台を築いていくことが大切であると考えた。

保育の現場での「エンゲージメント」とは、保育教諭が自分の仕事や園に対して感じる情熱や愛着を意味する。保育エンゲージメントが高い保育教諭は自発的に保育の質を高めようと努め、園児一人一人に丁寧に関わろうとする。さらに、職員同士が一体となって成長しようとし、園全体の連携や発展にもつながっていく。保育教諭自身が日々の保育を心から楽しみ、園児の声に耳を傾け、遊びを連続的につなげていくことが大切であり、「保育エンゲージメントの向上」が遊びの連続性を深めていくために効果的ではないかと考えた。

本研究では、保育エンゲージメントを高めながら、園児一人一人の遊びを連続的につなげていく環境の構成の在り方について考えるため、本主題を設定した。

2 研究のねらい

保育エンゲージメントの向上を図るとともに、遊びの連続性が深まる環境の構成の在り方を追究する。

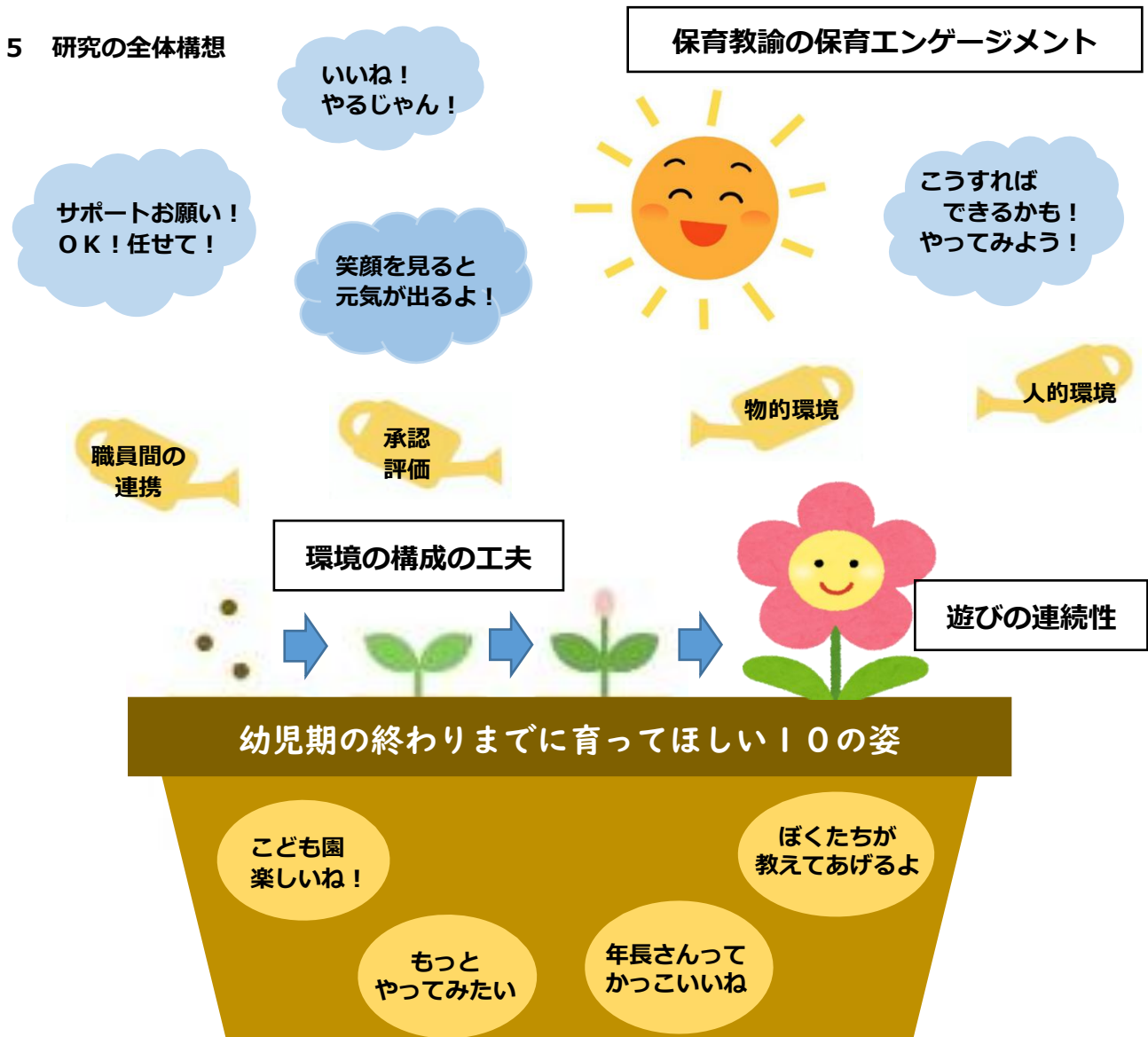
3 研究の内容

- (1) 園児の遊びを連続的につなげていくためには、どのような環境の構成や保育教諭の関わりが重要か、長期的な視点で捉え、探っていく。
- (2) 保育エンゲージメントを向上させるための具体的な方法を探究し、実践していく。

4 研究の計画

- (1) 研究テーマについて全職員で共通理解を図る。
- (2) 全職員対象にアンケートを実施し、課題を把握する。
- (3) 外部講師を招聘し、研究の進め方等についての指導・助言を受ける。
- (4) 保育エンゲージメントを高めるための園内研修を計画的に実施する。
- (5) 職員間の保育参観、保育カンファレンス等を計画的に実施する。
- (6) 計画的に教育保育課程の改善と、適切な編成を行う。
- (7) 遊びの連続性につながる環境の構成を実践しながら、問題点や改善方法を検討、見直しを繰り返し行っていく。

5 研究の全体構想



6 1年次の成果

- 園児への関わり方や配慮点、物的・空間的な環境の構成、園児の姿などに視点をおき、保育教諭が他の学年、クラスを保育参観し合い、意見交換を行ったことで、互いのアイデアを取り入れたり、保育を見直したりするきっかけとなった。
- 園内研修や、職員の保育エンゲージメントを高めていくためのアンケートなどを実施したことで、新たな気付きや課題が見つかり、各クラスの担当で話合いの時間を設け、改善に取り組んだ。
- 学年ごとの連携はもちろん、異年齢と行事などを通じて交流を行うことで、それぞれの学年のねらいを共有しながら活動に取り組むことができた。

7 今後の課題

- 達成したい園児の姿を明確にししながら教育保育課程や年間指導計画を見直し、育ちの理解を深めることで、遊びの連続性につながる環境の構成・保育の実践に取り組んでいく。
- 定期的な保育参観、保育カンファレンス等を継続して実施し、安心して意見を出し合いながら互いの力を引き出し合えるような保育エンゲージメントの向上に努めていく。

IV 令和7年度幼児教育教育課程研究協議会の要旨

1 (協議主題) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

【協議の視点】①幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進

【協議の視点】②架け橋期のカリキュラムの開発・実施

☆ 幼児教育教育課程研究協議会の参加者から寄せられたレポートの中から参考になる実践を紹介します。

2 グループ協議の結果(まとめ)

☆ 研究協議で話された内容のポイントを紹介します。



「水遊び」

社会福祉法人清心福祉会清心保育園 3歳児

「運動会(てつぼう)」

認定こども園めぐみ幼稚園 5歳児



1（協議主題）幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

【協議の視点】

- ① 幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進

実践1 「育ってほしい10の姿」の活用を通して、小学校との連携・協働を進める

ねらい

幼児期の遊びを通しての学びを、小学校での学習を通じた学びへとつなげていくために、幼児教育施設と小学校がどのように連携・協働していくことが考えられるのか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の活用を通し、探った。

ここがポイント

- 1 月週案と幼児の活動や取組の姿10の姿と紐づけて記録する。さらに、写真を入れることで、可視化された記録とした。（次頁：資料1）
- 2 ドキュメンテーションを活用し、全職員で幼児の育ちや興味を見取り、個別理解に繋げたり、支援方法や環境設定を考える手がかりとした。
- 3 園での取組や活動から見取った姿について、園だよりを通して「10の姿」から分かりやすく小学校に伝えた。
- 4 授業参観メモを活用し、小学校教諭に授業参観してもらった。
（『いばらきっ子の育ちをつなぐ 架け橋カリキュラム作成ガイドブック』ワーク3・4参照）

成果と課題

<成果>

- ・園だより「10の姿」を通して幼児期の育ちを捉えることで、小学校にも分かりやすく伝えることができ、参観時等に理解を深める手がかりになった。
- ・相互参観を行うことで、それぞれの教育の共通点や相違点に気付き、架け橋プログラムを考えるきっかけとなった。
- ・授業参観時の幼児の育ちから幼稚園教育の理解につなげることができた。

<課題>

- ・年間を通じた継続的な交流計画を作成し、それぞれの指導方法を理解し、教育支援に生かしたい。
- ・幼保小で「育ってほしい10の姿」を通して幼児の発達や支援の在り方を共有していきたい。

5歳児週案（週案と記録の一体的な形式 実際の幼児の姿を後付けて記入していく）

6月23日（月）～6月27日（金）

【月のねらい】・友達から刺激を受けたり、思いや考えを出し合ったりして遊ぶ楽しさを感じる。
・自分なりの目当てをもって挑戦したり、試したり、工夫したりする楽しさを味わう。
・夏の生活の仕方が分かり、夏の自然現象や飼育物・栽培物の生長に興味や関心をもって関わる。



これがベンチってわかるように、飾り付けるの。



壊されないように、（コンで）目印をつけよう。



身長計を飾り付けよう。

環境構成 幼児の姿（活動の展開・見通し）

【遊園地ごっこ】

- 「作ったベンチが壊されてる、壊されないように」ベンチって看板付けたら？」
- 「座りづらくなるから」離れたところに付けたら？」→再度ベンチを作ることにした。壊されないよう、自分なりに考えて、飾り付けをした。
- は、木曜日に続いて「パンダのふわふわドーム」の看板を作る。パンダの折り紙、装飾など集中して進めた。も興味を示す。
- ピエロタワーの柱が立つ。前回の経験を生かし倒れないように補強したり、カラーコーンでかこつたりする。（発案）
- 身長計の設計図が出来上がり、が材料を集めて作る。長さを測っていると、が定規やメジャーに興味を示す。

【まるちゃんタイム】

- 遊園地ごっこで作った身長計が運動会の入場門に似ていたことから、運動会のお話を話題に出した。
- 「リレーやりたい」「よさこいって踊りもあるよ」「去年のかめさんみたいに、手をもってやりたい」（フラッグ）運動会という言葉から、色々なイメージが挙がる。（体験が経験になっている）は、友達が良かれと思ってアイデアや提案をする言葉が、「自分の考えと違う＝否定されている」と感じる様子。

【大きく変わった】

- 畑をのぞいたら、野菜が成長していることに気付いた。傍に行ってみると、自分の背丈よりも伸びていることに気付き、伝え合う様子も見られた。世話もそれぞれ意識しながら継続している。

やりたい思いはあっても、思うようにいかず停滞が感じられる。幼児の思いや考えをよく見取っていく。

なんかのびてきてるよ ぼくと同じくらいになった

夏休みが近づいてきた。運動会も視野に入れながら、活動内容などを工夫していく。



T: (お休み報告時)「日直さん、は職員室に来ていましたか？」など

生活の場は離れているが、かめ組の幼児がの存在を感じられるように意識していく。

・評議委員会の日から、担任との関わりが増えてきた。絵の具遊びを喜び、職員室で楽しむ。担任を呼ぶために、一人でかめ組に来ることもできるようになってきた。
・園庭で見つけたダンゴムシ。とがにあげようと職員室に向かう。も笑顔で迎え、うけとった。

日にち	23日（月）	24日（火）	25日（水）	26日（木）	27日（金）
活動予定	自発的な活動 水遊び			保育参観 親子給食	アントラズサッカー教室

10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識・文字などの類・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
------	--------	-----	-----	--------------	-----------	---------	--------------	--------------------	-----------	----------

ね ら い	振り返り
<p>◎友達とイメージを共有し、思いを伝え合いながら遊びを進める。 ◎自分のしたいことに向かって、繰り返し試したり、工夫したりすることを楽しむ。 ◎夏の自然に興味をもち、遊びに生かしたり、世話をして収穫を喜んだりする。</p>	<p>・幼児のイメージ、遊びはどんどん広がっているが、自分が把握しきれていないと感じることが多々あった。遊びの振り返りの時間を活用しながら、それぞれの遊びや思いを見取っていく。</p> <p>・と友達の間わり、教師との間わりが変化をし始めた。雅子先生の言葉を聞いて、のペースを保つことを忘れ「もう一歩」と先を急いでしまおうになる自分がいることに気付いた。今一度、焦らず本見のペースを大切にしながら寄り添っていきたいと思う。</p>

実践2 幼保小交流や保育参観で、小学校や他の幼児教育施設を情報交換する

ねらい

市内の小学校と交流会や授業体験、見学を年5回実施している。また、市内公立保育所との交流や、令和6年度から市内幼児教育施設との合同研修を年に2回ずつ実施している。さらには、市内の幼保小が連携し、年に3回プロジェクト会議を行っている。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続の促進のためには、校種を越えた職員間の情報交換や子ども同士の交流活動の充実により、相互理解の機会を設けるなど、効果的な実施を図った。

ここがポイント

- 1 幼小交流では、就学予定の小学校に行き、小学校の雰囲気を感じられるようにした。
- 2 公開保育では、「10の姿」の項目を指導案に示したり、参観後の全体会では、小学校へどのようにつなげるのか動画の紹介や必要な取組について協議したりした。
- 3 小学校の計画訪問に、園の職員が参加し、「『10の姿』が学習や生活の中でどのように繋がり、発揮されているか」の視点で授業参観し、園内で情報共有した。
- 4 架け橋カリキュラム作成プロジェクト会議において、幼保施設の先生だけでなく小学校の先生も一緒に「育ってほしい10の姿」の繋げ方を話し合った。

成果と課題

<成果>

- ・小学校や他の幼児教育施設との交流により、小学校入学への不安が減り、期待感を膨らませるなど、効果が上がっている。
- ・公開保育後、小学校の職員から「幼児の姿を見て初めて『遊びからの学び』が理解できた」等の感想を多くいただいた。
- ・幼児期の経験や学びは、幼児が今後様々な場面で考えたり取り組んだりする時の姿に繋がるので、「10の姿」を意識して、幼児の発達をイメージしながら行う保育の大切さを再認識した。

<課題>

- ・幼児期の遊びを通じた学びと小学校の学習の繋がりについて、小学校との連携を広げ、相互理解を深めていく。
- ・幼児一人一人の発達の姿を汲み取りながら、個に応じた援助をしていく。

【協議の視点】

② 架け橋期のカリキュラムの開発・実施

実践1 「架け橋期のカリキュラム」を評価・改善・発展させ、持続可能なものにする

ねらい

架け橋期カリキュラムを実施して3年目、実施・検証の時期となる。昨年の課題である近隣小学校・保育園との情報共有と相互理解を進める中で、カリキュラムの理解を深め、実施と検証を繰り返し、持続可能な架け橋期カリキュラムにつなげた。

ここがポイント

- 1 園内研修を充実させ、これまでの実践をもとに、教育課程・指導計画・架け橋期のカリキュラムの一体的な見直しを図る。
- 2 自園だけでなく、近隣小学校や他の園の架け橋カリキュラムを参考に、本園の見直しを図る。
- 3 実効的な見直しに向けて、近隣小学校や園の教職員との相互理解のための協議、情報交換、施設見学、相互参観等を実施した。

成果と課題

<成果>

- ・園内外での研修や協議を通して、本園の架け橋期のカリキュラムについて、効果や課題について具体的に確認することができた。
- ・近隣小学校や他園の架け橋期のカリキュラムとのすり合わせを行うことで、相互理解につながり、今後の具体的な計画立案に効果的であった。
- ・教職員間の共通理解が深まり、園における小学校を具体的にイメージした指導計画の作成や、小学校においても園での取組や幼児の育ちをイメージしての計画と具体策が効果的に実践できた。
- ・交流活動により目的意識を具体化でき、幼児への支援が効果的になり、幼児の不安感の解消や期待感の充実、それに向けた取組が充実するなどの効果があった。

<課題>

- ・小学校と園の教職員が同じ目線で子どもたちを見ていくにあたり、さらに「同僚性」を高める視点での取組が必要である。
- ・幼児教育と学校教育では、「育ってほしい10の姿」に基づいてそれぞれの時期にふさわしい内容と方法で、一貫した3つの柱で「資質・能力」を育てているが、それらを家庭との連携を通して、家庭教育の充実にも広げていきたいと考える。

ねらい

これまで、架け橋期の教育の充実を目指し、地域の保幼小間で協働した活動に取り組んできた。今年度、さらに相互の保育・教育の理解を深め、架け橋期における共通の視点を探っていく必要性を感じたため、今までの保幼小連携活動や交流活動の実践の成果を生かし、子どもの育ちを繋ぐ「架け橋期のカリキュラム」を作成した。

ここがポイント

- 1 中学校区保幼小連絡協議会の中で、年間交流計画を作成、「育ってほしい 10 の姿」を共通理解した。
- 2 年間交流計画に基づき、幼児・児童の交流活動、職員間での交流活動を実施した。
- 3 中学校区内の幼小中の教育が一貫性をもち、連携して教育を進めていけるように、「市幼小連携・小中一貫教育推進協議会」において取組事業計画書や取組事業評価シートを作成した。（教育委員会事業）

成果と課題

<成果>

- ・保幼小中の職員間で「育ってほしい 10 の姿」についての理解を深め、幼児期の遊びから学びに繋がるプロセスを共通理解した。
- ・年間交流計画の実施、振り返りを行うことで、架け橋期の教育の重要性を再確認した。
- ・公立の園だけでなく、私立認定こども園とも繋がり、保幼小間での相互理解や協働が進んだ。
- ・交流活動や保幼小連絡協議会での話し合いにより、学びの姿が繋がっていること、課題に向けた援助方法や環境構成を再考する必要があることを再確認した。

<課題>

- ・「育ってほしい 10 の姿」や幼児教育の内容と小学校教育の内容の繋がりについて職員間で共通理解を深めていく。
- ・連絡協議会を継続して実施し、目指す子どもの姿や指導の視点について相互理解を深めていく。
- ・私立幼稚園と私立認定こども園、小学校で連絡協議会が実施できることは大切であり継続、実施は必要である。今後も連携を深め、育てたい子どもの姿や指導について共通の視点をもって保育・教育に取り組んでいく。

2 グループ協議のまとめ

【協議主題】

- ① 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

協議の視点1

幼児教育施設、幼児教育施設と小学校間における相互理解の推進

<情報交換の機会と内容の充実を図る>

- ・年度始めに年間指導計画に位置付け、計画的に職員間で情報交換できるようにする。
- ・幼児教育施設は公開保育を、小学校は授業公開を実施し、相互参観をする。
- ・園や学校の行事や長期休業、計画訪問等の機会を生かす。
- ・幼小で公開参観をしたり情報交換したりしたら、職員会議等で必ず全職員で共有する。
- ・ICTやドキュメンテーションを活用する。
- ・行政が主導して、幼児教育施設において、公立、私立の交流・連携を進めるように促す。
- ・市町村内で幼保小合同研修会や連絡協議会を計画的に進め、幼児の育ちや学びを小学校の生活や学習に円滑に接続できるようにする。
- ・幼児教育施設や小学校が、積極的に教育活動を発信し合い、相互理解を深める。

<「育ってほしい10の姿」の理解を広め、保育に生かす>

- ・教育課程や園の全体計画の中に「10の姿」を明記する。
- ・幼児教育施設を取組を「園だより」や「ホームページ」等で地域や小学校に知らせ、啓発する。
- ・小学校の教員に保育参観や保育体験をしてもらい、「10の姿」の視点で振り返ってもらう。
- ・幼児教育施設の教員が小学校の授業を参観し、「10の姿」が小学校の生活や学習に接続しているのかを協議する。
- ・幼児教育施設と小学校の教員が保育・授業を相互参観し、「10の姿」の視点で協議する。
- ・4歳児・5歳児の週案の「ねらい」に「10の姿」を明記、その後「振り返り」を行う。

協議の視点 2

架け橋期のカリキュラムの開発・実施

<カリキュラムを開発・実施する>

- ・市町村担当者と、幼児教育施設・小学校の管理職の連携を深めておく。
- ・年間計画に幼児教育施設と小学校との話合いの場を設定する。
- ・架け橋期の子どもの実態・発達段階を把握し、「育てたい子どもの姿」について共通のイメージ・視点を持ち、幼児教育施設と小学校との段差を滑らかにしていく。
- ・幼保小合同研修会等の開催により、年長児の遊びを通じた学びと小学校の学習活動について写真等を活用して紹介する。さらに、小学校区ごとに、「幼児教育」と「学校教育」のつながりを話し合いながら確認した。
- ・幼児教育施設と小学校の教員で意見交換をしながら「架け橋カリキュラム」を一緒に作成する。
- ・作成した「架け橋カリキュラム」が実践に生かされているか、実践事例をもとに検証・修正していく。

V 資料

- 家庭教育応援ナビ「すくすく育て いばらきっ子」
- 「架け橋カリキュラム」の作成・実施を
- 幼児教育関係資料一覧
- 「茨城の幼児教育第51号」作成協力者



「さつまいもほり」

認定こども園ひたち学院幼稚園 5歳児

家庭教育応援ナビ「すくすく育て いばらきっ子」

茨城県教育委員会では、「家庭教育応援ナビ」を開設し、子育てに役立つマンガや動画をはじめ、家庭教育コラムや子育て相談Q&A、子育てアドバイスブックなど、ご自身の研修や保護者への情報提供に役立つコンテンツを掲載しています。

また、幼児教育関係研修情報や動画・資料・教材のコンテンツを随時更新し、幼児教育に携わる方々への情報提供に努めております。

保護者向けの資料やお便りの記事としてもお使いいただけます。ぜひ、ご活用ください。

応援ナビトップページ



「家庭教育応援ナビ」で検索！

<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/katei/>

- ### ◆ コンテンツ紹介 ◆
- ①子育てに役立つマンガ・動画・資料
 - ②子育て相談Q&A
 - ③家庭教育コラム
 - ④おすすめの本紹介
 - ⑤子育てに関する相談窓口
 - ⑥イベント・講座情報
 - ⑦家庭教育支援資料モバイル版
 - ⑧家庭教育支援資料PDF版
 - ⑨子育てアドバイスブック外国語版
 - ⑩家庭教育支援活動サークル・団体情報
 - ⑪幼児教育関係研修情報
 - ⑫研修資料・教材
 - ⑬企業連携による教育力向上推進の取組
 - ⑭公式X（エックス）



研修関係コンテンツ

⑪ 幼児教育関係研修情報

- 下記の課の主催する研修情報を一覧表から確認できます。
 - ・生涯学習課
 - ・義務教育課
 - ・子ども未来課
- 研修名をクリックすると、開催要項や申込方法にアクセスできます。



⑫ 研修資料・教材

- 左記の研修で使う動画や資料、保育や授業、園内・校内研修、家庭教育学級等で活用できる教材や資料を掲載しています。
 - ▶ 「動画・資料」
 - ・研修の講義動画や資料
 - ▶ 「教材・資料」
 - ・架け橋カリキュラム作成ガイドブック
 - ・「架け橋期」の育ちと学びについて（保護者共有資料）
 - ・保幼小連携・接続実践事例集 等



【問合せ先】
 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
 就学前教育・家庭教育推進室
 TEL029-301-5132

「架け橋カリキュラム」の作成・実施を

「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」(令和6年10月)
茨城県架け橋カリキュラム検討会により作成しました。市町村や学校区
の取組を進める際の参考にしてください。

- 【内容】
- 「架け橋」で何をつなぐのか？
 - 「架け橋カリキュラム」作成イメージ
 - 「架け橋カリキュラム」作成のプロセス
 - フェーズごとの扉(取組のポイント)
 - グループワークの取組例
 - 幼児教育や小学校教育の好事例
 - ☆架け橋カリキュラムの様式や記入例
グループワークのワークシートや参観メモの様式も掲載
(カスタマイズ可能)
 - ※架け橋期(5歳児～1年生の2年間)のカリキュラムを
本資料では「架け橋カリキュラム」と呼びます。







架け橋カリキュラム作成ガイドブック



■「架け橋カリキュラム」作成のプロセス

「架け橋カリキュラム」作成において大切なことは、保育者と小学校教員で子どもの姿をもとに語り合える体制を作り、保育・教育の充実に向けて実践・検証しながら、協議を通して改善していくことです。そのためには、市町村や学校区ごとに継続的に開発会議等を開催することが重要です。それぞれの保育・教育の違いを互いに尊重し理解し合いながら、共に育てていく子どもの姿を真ん中に、共通に大切にしたいことを語り合い、作成を進めていきましょう。

今、自分の市町村(または近隣の小学校と幼児教育施設)は、どのフェーズの取組をしているかをチェックしながら、接続の充実に向かうように、できるところから取り組んでみましょう。

<p style="text-align: center;">フェーズ1 基盤作り</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 園長・校長間及び担任間の関係作り <input type="checkbox"/> 子どもの交流の実施 <input type="checkbox"/> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有 <input type="checkbox"/> 園や小学校での子どもの生活の流れや活動について共有(相互参観等) <input type="checkbox"/> <開発会議> 構成員の選定と目指す方向性の共有 <input type="checkbox"/> <開発会議> 地域の実態の把握 <input type="checkbox"/> 架け橋プログラム(体制作り・架け橋カリキュラム作り)の取組への理解と合意形成
<p style="text-align: center;">フェーズ2 検討・開発</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 【共通の視点】をもとに保幼小で意見交換し、架け橋カリキュラムを検討 <input type="checkbox"/> <開発会議> 架け橋カリキュラムの【共通の視点】の検討 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【共通の視点】の例 「育てたい子どもの姿」「育みたい資質・能力」「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」「指導上の配慮事項(環境の構成・先生の関わり)」「交流・連携計画」「家庭との連携」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> <開発会議> 保育者・小学校教員が協働して開発するための支援(研修等) <input type="checkbox"/> 5歳児～1年生の2年間を対象とするカリキュラムへ <input type="checkbox"/> 事前・事後打合せ等、幼児と児童の双方に学びのある交流を工夫
<p style="text-align: center;">フェーズ3 実施・検証</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各幼児教育施設や小学校での実施・検証 <input type="checkbox"/> <開発会議> 実施状況の把握・検証と支援 <input type="checkbox"/> 実践事例の収集・共有 <input type="checkbox"/> 教育課程や指導計画の見直し <input type="checkbox"/> 教材としての「環境」の活用について保育者と小学校教員で一緒に考える機会の設定 <input type="checkbox"/> 子どもの自発的な交流が生まれるよう、保育者と小学校教員で協働して工夫
<p style="text-align: center;">フェーズ4 改善・発展 サイクルの定着</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 持続的に改善・発展できる仕組みづくり <input type="checkbox"/> <開発会議> 方針の改善・発展と支援 <input type="checkbox"/> フェーズ2～3のPDCAサイクルの定着 <input type="checkbox"/> 改善・発展のため、接続する園・小学校で、子どもの学びや生活を具体的にイメージして話し合う場を設定 <input type="checkbox"/> 子どもの実態に応じて、各園・小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに

幼児教育関係資料一覧

<政府等刊行物>

資料名、発行年月等	解 説
① 幼稚園教育要領 平成 29 年 3 月 文部科学省	幼稚園で教育課程を編成する際の基準として、国が示したものである。
② 幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月 文部科学省	幼稚園教育要領について具体的に解説をしている。幼稚園教育要領の改訂の基になった考え方や幼稚園教育の基本を示した教育要領に関する最も基本的な参考資料である。
③ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年 3 月 内閣府 文部科学省 厚生労働省	幼保連携型認定こども園で教育・保育課程を編成する際の基準として、国が示したものである。
④ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月 内閣府 文部科学省 厚生労働省	幼保連携型認定こども園教育・保育要領について具体的に解説をしている。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の基になった考え方や園教育の基本を示した教育・保育要領に関する最も基本的な参考資料である。
⑤ 幼稚園教育指導資料 第 1 集 「指導計画の作成と保育の展開」 平成 25 年 7 月改定 文部科学省 (フレーベル館)	指導計画作成に当たっての基本的な考え方、指導計画の作成の具体的な手順とポイントを示すとともに、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続や指導計画の評価・改善のポイントなどについて実践事例を取り上げて解説している。
⑥ 幼稚園教育指導資料 第 2 集 「家庭との連携を図るために」 平成 4 年 7 月 文部省 (世界文化社)	幼稚園と家庭とが連携して相互の教育機能を高め合いながら幼児の発達を促していくための基本的な考え方や方法などについて、実践事例を取り上げて解説している。
⑦ 幼稚園教育指導資料 第 3 集「幼児理解と評価」 平成 22 年 7 月改定 文部科学省 (ぎょうせい)	幼稚園教育における幼児理解と評価の意味、幼児理解に必要な教師の姿勢と方法、記録の方法、指導要録の記入などについて述べているほか、創意工夫して適切な幼児理解と評価を進めていった実践事例を紹介している。
⑧ 幼稚園教育指導資料 第 4 集 「一人一人に応じる指導」 平成 7 年 4 月 文部科学省 (フレーベル館)	幼稚園教育の課題と教師の専門性について考えるとともに、一人一人に応じるための教師の基本姿勢や指導の実際について、事例を基に解説している。
⑨ 「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」 平成 13 年 3 月 文部科学省 (ひかりのくに)	幼児の道徳性の発達についての基本的な考え方や具体的な事例を通して、道徳性の芽生えにつながる幼児の姿と教師の関わりについて、幅広い角度から述べられている。
⑩ 「幼児期から児童期への教育」 平成 17 年 2 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター (ひかりのくに)	幼児期から児童期の教育を考える際の基本的な事項、幼稚園教育に期待されること、幼児期から児童期への教育を豊かにする視点のほか、発達の時期の特徴をとらえた実践事例を通じて、幼児理解、環境の構成や教材、教師の援助について解説している。
⑪ 「幼稚園における子育て支援活動及び預かり保育事例集」 平成 21 年 3 月 文部科学省	少子化や都市化、男女共同参画の進展や核家族化によって、多くの幼稚園で行われている子育て支援や預かり保育の事例を取りまとめたもの。
⑫ 「保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集」 平成 21 年 3 月 文部科学省 厚生労働省	「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」に盛り込まれた小学校との連携の推進をする上で、参考となる事例を取りまとめたもの。
⑬ 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」 平成 22 年 11 月 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議	子供の発達や学びの連続性を保障するため幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続できるよう幼小接続における教育課程編成、指導計画作成上の留意点や幼小接続の取組を進めるための方策をまとめたもの。
⑭ 幼児期運動指針ガイドブック 「毎日楽しく体を動かすために」 平成 25 年 2 月 文部科学省 (サンライフ企画)	幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培い、様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むために、子供の発達段階に応じてどのような運動をさせ、どんな能力を身につけさせればよいのかという目安を示し、その具体的な方法を例示したもの。
⑮ 発達や学びをつなぐスタートカリキュラム ースタートカリキュラム導入・実践の手引きー 平成 30 年 3 月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター	新しい小学校学習指導要領の実現に加え、スタートカリキュラムの取組を学校全体として一層充実させていくことを目的として、この手引きが新たに作られた。本手引きには、各学校が抱える様々な実態に対応できるように、スタートカリキュラムを実際に編成・実施していくために必要な具体的な手順、事例等を盛り込んでいる。

⑬ 幼児理解に基づいた評価 平成 31 年 3 月 文部科学省 (チャイルド本社)	一人一人の幼児を理解し、適切な評価に基づいて保育を改善していくための基本的な考え方や方法について、実践事例を取り上げながら解説している。
⑭ 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 令和 3 年 2 月 文部科学省 (チャイルド本社)	教育課程に基づいて幼児の発達の実情に照らし合わせながら、一人一人の幼児が生活を通して必要な経験が得られるような具体的な指導計画を作成するための基本的な考え方や方法などについて解説している。
⑮ 指導と評価に生かす記録 令和 3 年 10 月 文部科学省 (チャイルド本社)	教師の専門性を高めるための記録の在り方や、その記録を実際の指導や評価にどのように生かしていくのかなどについて実践事例を取り上げて解説している。

<映像教材 (DVD) >

タイトル、対象学年等	解 説
① 幼児理解に始まる保育① 「3歳児の世界」 3歳児 23分 平成14年 文部科学省初等中等教育局幼児教育課監修 岩波映像株式会社	入園当初の自分中心な3歳児が様々な出来事と出会う場面で、幼児が何を求めているのか戸惑う新任の先生の姿をとらえている。〈ひとりじめしたいの？それとも思いやり？〉〈友だちってなあに？友だちと一緒に楽しい？〉〈一人一人のこだわりにどこまでつきあうの？〉〈一人一人のリズムと園生活〉の4場面。
② 幼児理解に始まる保育② 「せんせいだいすき」 4歳児 20分 平成15年 文部科学省初等中等教育局幼児教育課監修 岩波映像株式会社	幼児の表情や言葉、動きなどから、幼児の思いや願いを捉え、幼児理解を深める教材として編集されている。〈アカリちゃんありがとう〉〈甘えたいの？それとも……〉〈お靴をとりに行くだけ？〉〈先にいただきますしていいからね〉の4場面。
③ 幼児理解に始まる保育③ 「ぎゅうにゅうできたよ —子供の思い・先生の願い—」 4歳児 22分 平成16年 文部科学省初等中等教育局幼児教育課監修 岩波映像株式会社	保育記録を書きながら、子供の思いと自分の願いのずれに気付く先生の姿が描かれる。〈メガネつくろうよ〉〈みんなできれいにしよう〉〈みんなの顔をかいてほしいんだけど〉〈修理してたの？〉の4場面。
④ 幼児理解に始まる保育④ 「友だちと出会う」 4歳児 22分 平成17年 文部科学省初等中等教育局幼児教育課監修 岩波映像株式会社	一人一人がイメージを出しながら一緒に遊びを楽しむためにはどのような関わりが必要なのか。〈6まいもってるすごいだろう〉〈かわいいひとははいれない〉〈やるかふたりで〉〈みどりのぬまつくってみる〉の4場面。
⑤ 幼児理解に始まる保育⑤ 「いっしょにやろうよ～伝え合う気持ち・5歳児」 5歳児 35分 平成18年 文部科学省初等中等教育局幼児教育課監修 岩波映像株式会社	一人一人の思いに教師はどう応じ、どのようにつなげていけばよいのか。教師の関わりが幼児の言動にどのような変化をもたらしているのか考えることができる。〈子供会で人形劇をしよう〉〈遠足バスはどこに行くの〉〈お客さんをよんできたら〉〈どうしてハルカちゃんやらないの〉の4場面。
⑥ 幼児とのかかわりを考えるA 「新しい先生とともに」 4歳児 20分 平成4年 「はじめての幼稚園」 4歳児 21分 平成5年 「こんなことがおこったら」 4歳児 22分 平成6年 「新しい生活がはじまって」 3歳児 20分 平成7年 文部省初等中等教育局幼稚園課監修 岩波映像株式会社	「新しい先生とともに」 新任の先生が園生活の中で幼児との関わりに戸惑う場面を通して、幼児理解の在り方を考えていく。保育の中での教師の指導の実際について、様々な観点から話し合いの資料とすることができる教材である。 「はじめての幼稚園」 登園、かたづけ、お弁当など、毎日の園生活での幼児の思いにふれながら、その指導の在り方を考えていく。保育の中でよく起こると思われる場面を取り上げて活用しやすいようになっている。 「こんなことがおこったら」 園生活で起こる様々な出来事は、いずれも幼児の発達に関わる大切な場面である。生活の中で育つ姿やそのための援助を考えていく。それぞれの場面に自分自身が直面したと想定して、どうしたらよいかを考える上で参考となる。 「新しい生活がはじまって」 新しい園生活がはじまって戸惑う幼児の姿から、幼児とともに園生活のリズムをつくり出すことを考えていく。教師のどのような関わりが幼児のどのような行動を生み出しているのか考える上で参考となる。

<p>⑦ 幼児とのかかわりを考えるB 「せんせい、見てて」 4歳児 20分 平成8年 「だって、やりたいんだもん」 4歳児 20分 平成9年 「せんせいは、トオルくんとつきあってるんだよ」 4歳児 22分 平成10年 文部省初等中等教育局幼稚園課監修 岩波映像株式会社</p>	<p>「せんせい、見てて」 一人一人に応じていくためには、幼児一人一人のやっ ていくことに温かな関心を寄せ、その思いを受け止めていく必要 がある。二人の幼児との関わりを通して一人一人に応じる指 導の在り方を考えていく。 「だって、やりたいんだもん」 幼児一人一人がその子らしさを発揮していくためには、温 かな雰囲気のある学級を作ることが大切である。友達との出 会いから始まる集団生活を考えていく。 「せんせいは、トオルくんとつきあってるんだよ」 幼児の話に最後まで耳を傾け行動を見守るという教師とし ての関わりは、幼児との信頼関係を築き、充実した園生活を つくり出すことにつながる。幼児が語りかける言葉からその 心の揺れ動きを受け止め幼児との関わりを考える。</p>
<p>⑧ 幼児とのかかわりを考えるC 「ふたりだったらチョーさみしそう」 4歳児 24分 平成11年 「ここだからねせんせい」 5歳児 22分 平成12年 「アリちゃんはアメリカへいっちゃったの ～3歳児・5月の生活」 3歳児 21分 平成13年 文部省初等中等教育局幼稚園課監修 岩波映像株式会社</p>	<p>「ふたりだったらチョーさみしそう」 幼児の主体的な活動は友達との関わりの中でより豊かにな っていく。幼児一人一人の心を受け止め、幼児同士の関わり を深めながら、一人一人のよさを生かす指導の在り方を考え ていく。 「ここだからねせんせい」 幼児の主体的な活動を促すためには、幼児一人一人の思い や願いを受け止め、それにそって教師が様々な役割を果たす ことが必要である。教師と幼児とのやり取りから、幼児理解 に基づく保育について考えていく。 「アリちゃんはアメリカへいっちゃったの」 園生活に慣れ、安定した気持ちをもつようになるために は、幼児一人一人の心の動きにそった教師の関わりが大切で ある。入園当初の3歳児が次第に安定していく姿から、幼児 理解に基づく保育について考えていく。</p>
<p>⑨ 3年間の保育記録 「よりどころをもとめて」 3歳児前半 38分 「やりたい でも、できない」 3歳児後半 35分 平成16年 文部科学省特別選定 小田豊国研理事長・神長美津子教授/監修 岩波映像株式会社</p>	<p>「よりどころをもとめて」 入園から卒園まで一人の子供を通して幼児の発達と教育の 実際を描くシリーズの1作目。初めて保護者と離れる不安を 先生がどのように受け止めるか、入園から夏休みまでのリョ ウガくんと教師の関わりから考える。 「やりたい でも、できない」 3歳児の2学期、次第に先生や友達のしていることに興味 をもち、自分の世界を広げていくが、やりたい気持ちが強く なるにつれ、うまくいかないこともでてくる。そんなとき、 先生は子供たちをどのように支えるかを考える。</p>
<p>⑩ 3年間の保育記録 「先生とともに」 4歳児 46分 「育ちあい学びあう生活の中で」 5歳児 57分 平成17年 文部科学省特別選定 小田豊国研理事長・神長美津子教授/監修 岩波映像株式会社</p>	<p>「先生とともに」 4歳は友達との関係の中に自分の世界を広げていくが、心 に葛藤を感じる時期でもある。幼児の心をほぐし動き出させ るためには幼児の心に寄り添い支える保育者の存在が大切な ことを伝えている。 「育ちあい学びあう生活の中で」 5歳児はたくさんの友達に会い、刺激を受け、時にはぶ つかり合いながら育っていく。そうした子供同士の関係をつ くっていくことが保育者の大切な役割であることを伝えている。</p>
<p>⑪ 「年長さんがつくったおばけやしきー生活発表会に向 けてー」 5歳児 23分 平成15年 文部科学省特別選定 岩波映像株式会社</p>	<p>5歳児11月の幼児が、先生や友達と一緒に生活発表会に向 かう。幼児同士がぶつかり合ったりアイデアを出し合ったり しながら、互いに認め合って成長する姿。それを支える教 師のかかわりが、幼児に活動する充実感を与え、行事や園生 活をより魅力あるものとしていることを読み取ることができる。</p>
<p>⑫ 「迷路ごっこだよー伝える喜びから伝えあう楽しさへ ー」 5歳児 22分 平成13年 文部科学省特別選定 岩波映像株式会社</p>	<p>5歳児12月の幼児たちと教師とのありのままの生活が映し 出されている。教師の仲立ちによって、「伝える喜び」から 「伝えあう楽しさ」へと変容する幼児の姿を通して、コミュ ニケーションを育てる教師の関わりを考えていく。</p>
<p>⑬ 「ごめんね、またこんどねー4歳児のゆれる心ー」 4歳児 22分 平成16年 文部科学省選定 日本映画新社</p>	<p>幼稚園の年中組にスポットをあて、遊びを通して友達との 関わり方や思いやる気持ちを学んでゆく姿を紹介しながら、 子供たちと関わる先生の想いや役割について考える。</p>

<p>⑭ 「やっぱりそうだよねー認めあう友達との生活・5歳児3学期」 5歳児 36分 平成20年 文部科学省特別選定 幼児教育映像制作委員会</p>	<p>幼稚園生活最後の生活発表会の準備を始める5歳児。どんな劇にするか、背景や衣装をどうするか。それまで学んだ経験を生かしながら友達と協力して活動を豊かに展開しようとする幼児たちの姿と、幼児同士の心のつながりのある温かい学級集団を育てようとする教師の姿が映し出されている。</p>
<p>⑮ 「ある認定こども園の挑戦ー環境がはぐくむ健やかな子どもの育ちー」 0歳児～6歳児 90分 平成17年 岩波映像株式会社</p>	<p>認定こども園での教育及び保育は「環境を通して行う」ことが基本である。0歳児から6歳児までの子供が安心して、心地よく生活できる環境、また子供の自発的な活動である遊びを保証する環境を求めて、子供と保育教諭そして保護者、ときには地域の方と創造する認定こども園の生活が描かれている。</p>
<p>⑯ 「保育所保育指針を映像に」 0歳児～6歳児 121分 平成21年 岩波映像株式会社</p>	<p>第1巻では子供の遊びや環境への関わり、友達や保育士とのやりとりに着目し、具体的な保育実践について考えていく。第2巻では保育所の社会的役割や責任を果たすことの重要性と地域社会に貢献していく必要性を伝えていく。</p>
<p>⑰ 「3.11 その時、保育園は”いのちをまもるいのちをつなぐ”」 検証編(60分) 証言編(124分) 日本女子体育大学 天野珠路教授/監修 岩波映像株式会社</p>	<p><検証編> 1 避難先・避難ルートの確認 2 地域との連携 3 保護者への連絡・伝達 4 保育園の備蓄 5 保育中の安全教育 6 子どもの安全を考慮して 7 社会的役割と使命 <証言編>被災した岩手県・宮城県・福島県 14園からの声</p>
<p>⑱ 「希望をささえるー3.11 その時、保育園は”続編”」 日本女子体育大学 天野珠路教授/監修 岩波映像株式会社</p>	<p>1 プロローグ・2分 2 子ども達の震災・9分 3 保育を支えあう・7分 4 神戸の記憶・7分 5 保育士の痛み・18分 6 放射能から子どもを守る・14分 7 未来を紡ぐ保育園の再建・14分</p>
<p>⑲ 幼児教育研修用DVD(45分) 「幼児教育から小学校教育へー1ねんせいになるってことはー」 5歳児～小学1年生 平成28年 聖徳大学大学院 篠原孝子教授/監修・解説 幼児教育映像製作委員会</p>	<p>幼児教育と小学校教育では、生活の仕方、学び方など大きな違いがあり、双方の教育内容や指導方法等の理解が課題となっている。このDVDは、一人の子供の5歳児3学期から小学校生活に適應するまでを連続して映像で記録している。幼児期に育みたい力とは何か、子供はどのような段差を感じるのか、小学校のスタートカリキュラムはどうあったらよいかなどを考えられるようになっている。</p>
<p>⑳ 「ある認定こども園の挑戦Ⅱー育ちあう保育」 0～6歳児 85分 平成29年 増田まゆみ教授・無藤隆教授/監修・解説 岩波映像株式会社</p>	<p>I 認定こども園さざなみの森誕生・17分 II ミニレクチャー(2018年施行の各保育要領等のポイント) III 0、1、2歳児の保育・20分 IV 3、4、5歳児の保育・15分 V 保護者、地域と共に創造する保育・9分 VI 保育者の育ち・12分</p>
<p>㉑ 特別支援教育・保育DVD(56分) 「みんなで育てる みんなで育つ～子どもの困難さに寄り添う保育～」 4歳児 平成30年 文部科学省選定 聖徳大学 小田豊教授/監修 幼児教育映像制作委員会</p>	<p>子供たちの発達には個人差があり、特に幼児期は発達も著しく、障害があるといわれた子供でも、成長段階で症状が変化したり、周囲の大人たちの適切な関りで、気になる症状が改善されたりすることが多くある。このDVDは、幼児一人一人の個性や困難さに正面から向き合う幼児期の特別支援教育の在り方を教えてくれている。</p>
<p>㉒ 「映像で見る 主体的な遊びで育つ子どもーあそんでぼくらは人間になるー」 大豆生田啓友・中坪史典/編著 エイデル研究所</p>	<p>保育に関わるあらゆる学習課題に答えることを目的に、映像とテキストにより構成されている。 映像には15シーンの保育実践が収録されており、テキストを使って研修できるように工夫されている。 例:「新入園の頃」、「コマに夢中」、「どろだんごの時間」等</p>
<p>㉓ 「園内研修用DVD」～園内研修の充実をめざして～ 「遊びきる子ども」を育むために 鳥取県教育委員会</p>	<p>1 園内研修DVDの活用にあたって 2 保育者の援助と環境の構成について考えましょう 3 視点を絞って保育を振り返りましょう 4 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえましょう 5 「遊びきる子ども」をめざして</p>
<p>㉔ 「映像で見る 3・4・5歳のふれあいうたあそびうた」 心と身体を育む118の関わり 園と家庭をむすぶ「げんき」編集部 エイデル研究所</p>	<p>ふれあい遊びの原点である1対1の関わりから、少人数での遊び、そして集団での遊びや高度な言葉遊びを、種類別に整理して、118の映像にまとめました。 実際の保育現場を撮影、つくりこまれた映像でないからこそその価値があります。</p>
<p>㉕ 「つなげよう! 架け橋期」 主体性を発揮する幼児教育と小学校教育 文部科学省選定 「幼保小架け橋」映像制作委員会</p>	<p>架け橋期は、幼児教育で生まれた資質・能力を小学校教育へつなげて学びや生活の基盤をつくる大切な2年間です。「幼児教育編」では自発的な活動としての遊びの場面を中心に、「小学校教育編」ではスタートカリキュラムや生活科の場面を中心に、子供たちが主体性を発揮して育っていく姿が記録されています。</p>

<本県の指導資料>

年 度	指 導 資 料 等
昭和 44 年度	幼稚園教育指導事例集 第 1 集 (自然編)
昭和 45 年度	幼稚園教育指導事例集 第 2 集 (社会編)
昭和 46 年度	幼稚園教育指導事例集 第 3 集 (健康編)
昭和 47 年度	幼稚園教育指導事例集 第 4 集 (絵画製作編)
昭和 48 年度	幼稚園教育指導事例集 第 5 集 (言語編)
昭和 49 年度	幼稚園教育指導事例集 第 6 集 (音楽リズム編)
昭和 50 年度	茨城の幼稚園教育 第 1 号 教育制度の推移と茨城の幼稚園教育 幼稚園教育指導資料 1 指導計画作成・改善のための手引き
昭和 51 年度	茨城の幼稚園教育 第 2 号 101 年目から幼稚園教育 幼稚園教育指導資料 2 指導内容精選のための手引き
昭和 52 年度	茨城の幼稚園教育 第 3 号 幼小関連の教育 幼稚園教育指導資料 3 指導の反省・評価のための手引き 幼稚園教育研究指定校研究収録 (第 1 集)
昭和 53 年度	茨城の幼稚園教育 第 4 号 新規採用教員研修講座の実施をめぐって 幼稚園教育指導資料 4 幼児理解のための手引き 幼稚園教育研究指定校研究収録 (第 2 集)
昭和 54 年度	茨城の幼稚園教育 第 5 号 『心』を育てる教育 幼稚園教育指導資料 5 指導法改善のための手引き 幼稚園教育研究指定校研究収録 (第 3 集)
昭和 55 年度	茨城の幼稚園教育 第 6 号 教育課程の編成について 幼稚園教育指導資料 6 幼小連携の教育を進めるための手引き 幼稚園教育研究指定校研究収録 (第 4 集)
昭和 56 年度	茨城の幼稚園教育 第 7 号 総合的な指導の充実 ー興味や欲求を生かして行う指導の在り方ー 幼稚園教育指導資料 7 幼児の自発性を育てるための手引き 幼稚園教育研究指定校研究収録 (第 5 集)
昭和 57 年度	茨城の幼稚園教育 第 8 号 総合的な指導の充実 ー幼児の発達に即した指導ー
昭和 58 年度	茨城の幼稚園教育 第 9 号 総合的な指導の充実 ー幼児の育ちと環境教育ー
昭和 59 年度	茨城の幼稚園教育 第 10 号 総合的な指導の充実 ー家庭との連携を中心にー
昭和 60 年度	茨城の幼稚園教育 第 11 号 幼稚園教育の見直し
昭和 61 年度	茨城の幼稚園教育 第 12 号 幼稚園と家庭との連携に関する研究
昭和 62 年度	茨城の幼稚園教育 第 13 号 自然と触れ合いを図る指導の充実
昭和 63 年度	茨城の幼稚園教育 第 14 号 これからの幼稚園教育 1 ー楽しい園生活と環境とのかかわりー
平成元年度	茨城の幼稚園教育 第 15 号 これからの幼稚園教育 2 ー楽しい園生活と環境とのかかわりー
平成 2 年度	茨城の幼稚園教育 第 16 号 これからの幼稚園教育 3 ー楽しい園生活と環境とのかかわりー
平成 3 年度	茨城の幼稚園教育 第 17 号 幼稚園生活の中での教師の役割 幼稚園教育リーフレット 1 幼児教育にふさわしい生活の展開
平成 4 年度	茨城の幼稚園教育 第 18 号 指導計画の作成と展開 幼稚園教育リーフレット 2 家庭との連携
平成 5 年度	茨城の幼稚園教育 第 19 号 幼児の理解と評価 幼稚園教育リーフレット 3 評価を生かして保育を見つめる
平成 6 年度	茨城の幼稚園教育 第 20 号 家庭や身近な社会とのかかわり 幼稚園教育リーフレット 4 幼児期の発達を見通す

平成7年度	茨城の幼稚園教育 第21号 地域の中の園 幼稚園教育リーフレット5 一人一人に応じるために
平成8年度	茨城の幼稚園教育 第22号 カウンセリングマインドを生かして 幼稚園教育リーフレット6 幼児の心によりそうために
平成9年度	茨城の幼稚園教育 第23号 一人一人を大切に、集団のよさを加味しながら 幼稚園教育リーフレット7 少子時代における集団の役割を
平成10年度	茨城の幼稚園教育 第24号 障害のある幼児とともに 幼稚園教育リーフレット8 受け止めていますか、一人一人のよさを
平成11年度	茨城の幼稚園教育 第25号 今、幼稚園教育に求められるもの1 ー教師の役割ー 幼稚園教育リーフレット9 今、幼稚園教育に求められるもの ー教師の役割ー
平成12年度	茨城の幼稚園教育 第26号 今、幼稚園教育に求められるもの2 ー幼稚園と小学校の接続のためにー 幼稚園教育リーフレット10 幼稚園と小学校の接続のために
平成13年度	茨城の幼稚園教育 第27号 今、幼稚園教育に求められるもの3 ー親育ちをともに考えてー
平成14年度	茨城の幼稚園教育 第28号 地域社会と共に歩む ー多様化時代の幼稚園ー
平成15年度	茨城の幼稚園教育 第29号 幼稚園教員の資質向上のために1 ー研修を通して学ぶー
平成16年度	茨城の幼稚園教育 第30号 幼稚園教員の資質向上のために2 ー研修を通して力をつけるー
平成17年度	茨城の幼稚園教育 第31号 開かれた信頼される幼稚園を目指して ー学校評価の実践ー
平成18年度	茨城の幼稚園教育 第32号 幼児期における道徳性の芽生えを培う リーフレット 幼児期から児童期への発達や学びの連続性を踏まえた連携・接続のために
平成19年度	茨城の幼稚園教育 第33号 幼保小連携教育を考える1
平成20年度	茨城の幼稚園教育 第34号 幼保小連携教育を考える2
平成21年度	茨城の幼稚園教育 第35号 幼稚園における子育て支援を考える
平成22年度	茨城の幼稚園教育 第36号 幼稚園における食育を考える
平成23年度	茨城の幼稚園教育 第37号 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について考える
平成24年度	茨城の幼稚園教育 第38号 協同して遊ぶことから学び合う活動へ
平成25年度	茨城の幼稚園教育 第39号 幼児期からの「心の教育」
平成26年度	茨城の幼稚園教育 第40号 幼児期の健康と安全①ー自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うためにー
平成27年度	茨城の幼児教育 第41号 幼児期の健康と安全②
平成28年度	茨城の幼児教育 第42号 幼児期で培われた育ちや学びの、小学校生活や学習への円滑な接続
平成29年度	茨城の幼児教育 第43号 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育と小学校教育との円滑な接続
平成30年度	茨城の幼児教育 第44号 子どもの発達を踏まえた言語環境の充実
令和元年度	茨城の幼児教育 第45号 特別な配慮を必要とする幼児への指導
令和2年度	茨城の幼児教育 第46号 幼児理解に基づいた評価
令和3年度	茨城の幼児教育 第47号 保育の質を高める園内研修の工夫
令和4年度	茨城の幼児教育 第48号 幼保小の架け橋期における保育・教育の質の向上 ～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに～
令和5年度	茨城の幼児教育 第49号 幼保小の学びのつながり
令和6年度	茨城の幼児教育 第50号 保育・教育の質を高める「振り返り」～ドキュメンテーションを通して～
令和7年度	茨城の幼児教育 第51号 保護者や地域との連携が作り出す保育・教育の可能性 ～アンケートの活用を通して～

「茨城の幼児教育第 51 号」作成協力者

※ 敬称略

(令和 7 年度幼児教育指導資料作成委員)

山 瀬 範 子	國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授
桃 井 仁 美	牛久市立第一幼稚園主任教諭
塙 美枝子	とうかい村松宿こども園主幹保育教諭
吉 岡 真由美	常総市水海道第一保育所主任保育士
栗 山 栄美子	認定こども園めぐみ幼稚園園長
高江洲 義 信	認定こども園ひたち学院幼稚園副園長
前 嶋 敦 子	社会福祉法人清心福祉会清心保育園主任保育士
浅 野 しのぶ	神栖市立大野原小学校教諭
横 田 純 子	筑西市立認定こども園せきじょう主幹保育教諭 (研究推進校)
寺 門 剛 美	水戸教育事務所主査
富 山 秀 男	県北教育事務所主査
石 津 光 彦	鹿行教育事務所主査
藤 岡 洋 子	県南教育事務所主査
田 嶋 貴 子	県西教育事務所主査

(資料提供)

保健福祉部子ども未来課

教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室

なお、教育庁においては、主として次の者が本書の編集にあたった。

永 尾 義 江	学校教育部義務教育課指導担当課長補佐
大 越 茂	学校教育部義務教育課主任指導主事
野 田 こず恵	学校教育部義務教育課指導主事
大 谷 栄 子	学校教育部義務教育課主査
大 芝 由美子	学校教育部義務教育課主査

茨城の幼児教育 第 51 号

発行年月 2026 年 (令和 8 年) 3 月

著 作 茨城県教育委員会

〒310-8588 水戸市笠原町 978 番 6

TEL029-301-1111 (代表)
